

共通事項

- 溶接記号は、突合せ溶接か、すみ肉溶接かの区別を示し、開先形状は、「溶接規準図」による。
- 特記がない場合、鋼材材質は下記とする。
大梁：SN400B
柱：BCR295
- ダイヤフラムは通しダイヤフラム、及び、内ダイヤフラムとし、本図に準じる。
原則として、梁フランジが取合う場合は通しダイヤフラムとする。
仕口パネル部の強度が梁の強度より上位、かつ、仕口部の最上部、最下部のダイヤフラム以外の中段部のダイヤフラムのうち、向かい合う辺の1方向のみにフランジが取付く場合は、内ダイヤフラムとしてよい。
- 梁フランジ完全溶け込み溶接部はノンスラップ形式とする。
- ▷ は、柱心を示す。
- ▶ は、ウェブ心を示す。
- ◁印は、現場継手位置を示し、寸法は軸組図による。
- ※寸法は、伏図および軸組図による。

仕口部仕様詳細
(各図に記載がある場合は記載内容による)

[A] 通しダイヤフラムの材質
SN490C
($t > 40$ の場合、TMCP325C (大臣認定品) とする。)

- 板厚は、集合する梁フランジの最大板厚の2サイズアップかつ、柱断面最大板厚の1サイズダウン以上、かつ16mm以上とする。
- 梁フランジは、通しダイヤフラムの厚み内で溶接すること。

[B] 内ダイヤフラムの材質は下記とする。
SN490B (取付く梁の強度に関わらず)

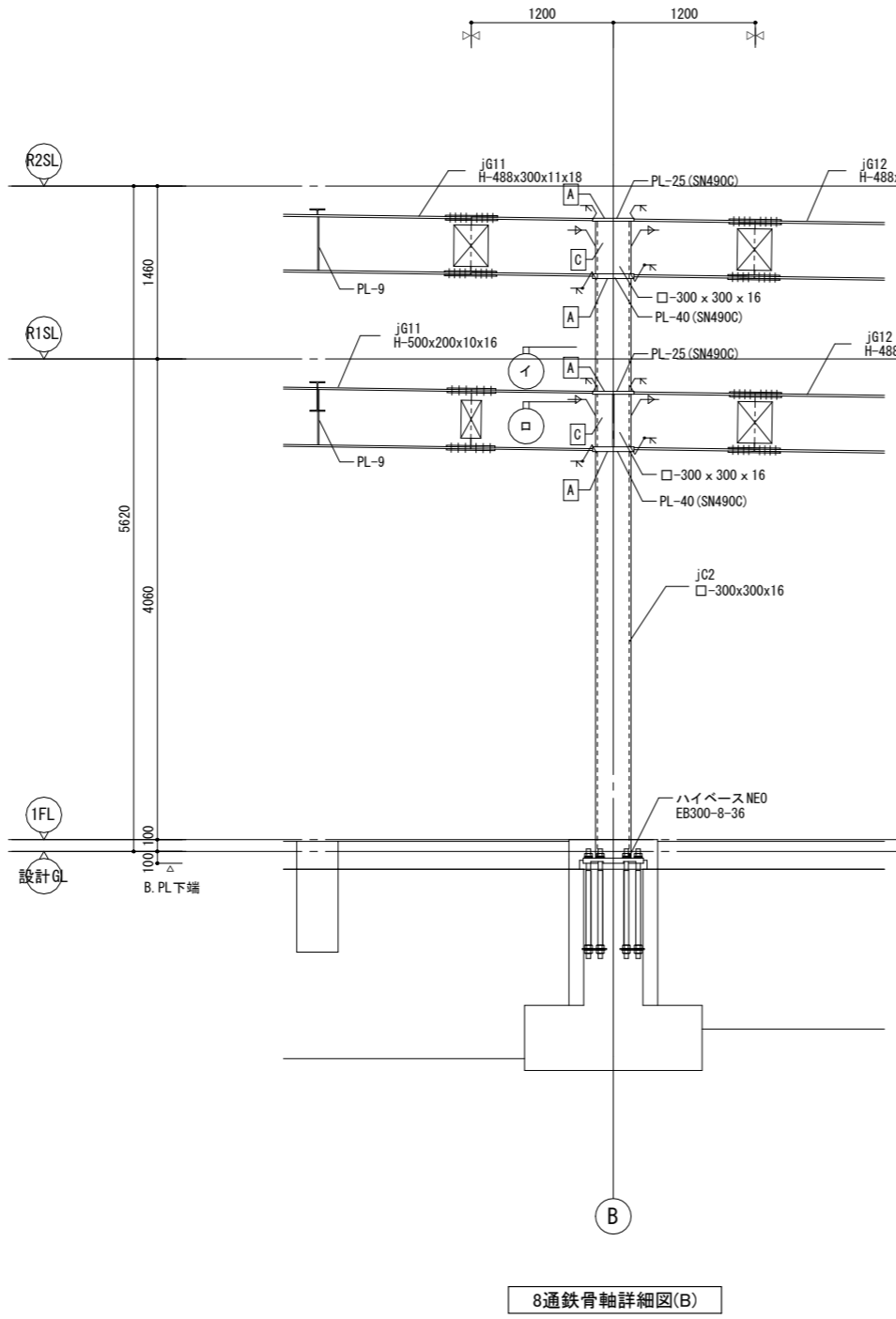
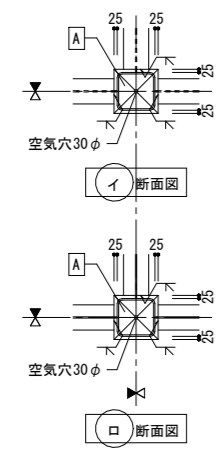
- 厚みは梁フランジ厚の1サイズアップを標準とする。

[C] 仕口部パネルの材質、断面
BCR295のみに取付く場合：BCR295
・パネル部の材質がBCR295に取付くSN490Bの梁ウェブのすみ肉溶接サイズは、S006図の1.2倍以上とすること。

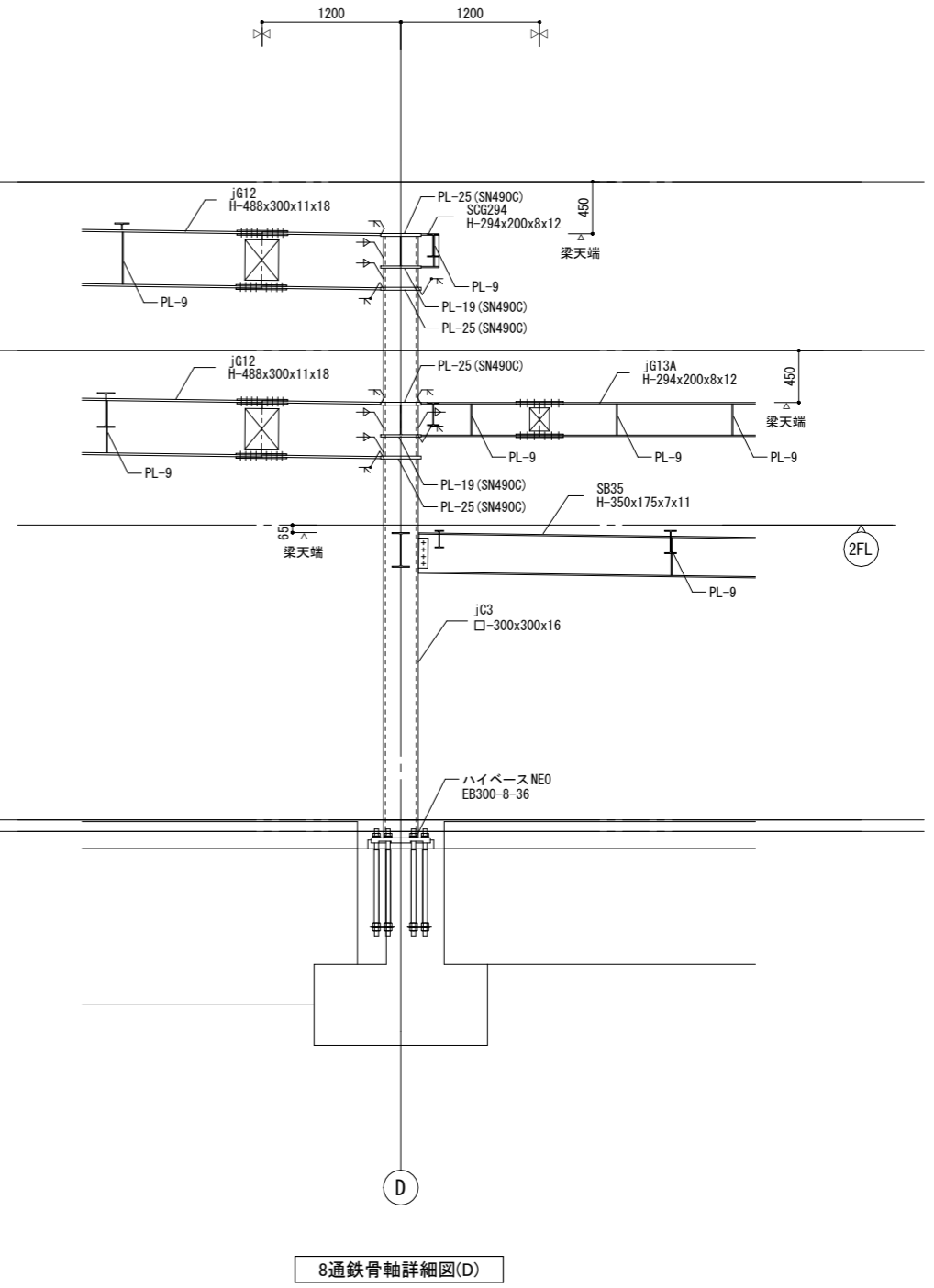
ダイヤフラム板厚表

T	ダイヤフラム板厚	T	ダイヤフラム板厚	T	ダイヤフラム板厚
9	16	17	25	25	32
11	19	18	25	26	32
12	19	19	25	28	36
13	19	20	28	32	40
14	22	21	28	36	45
15	22	22	28	40	50
16	22	24	32		

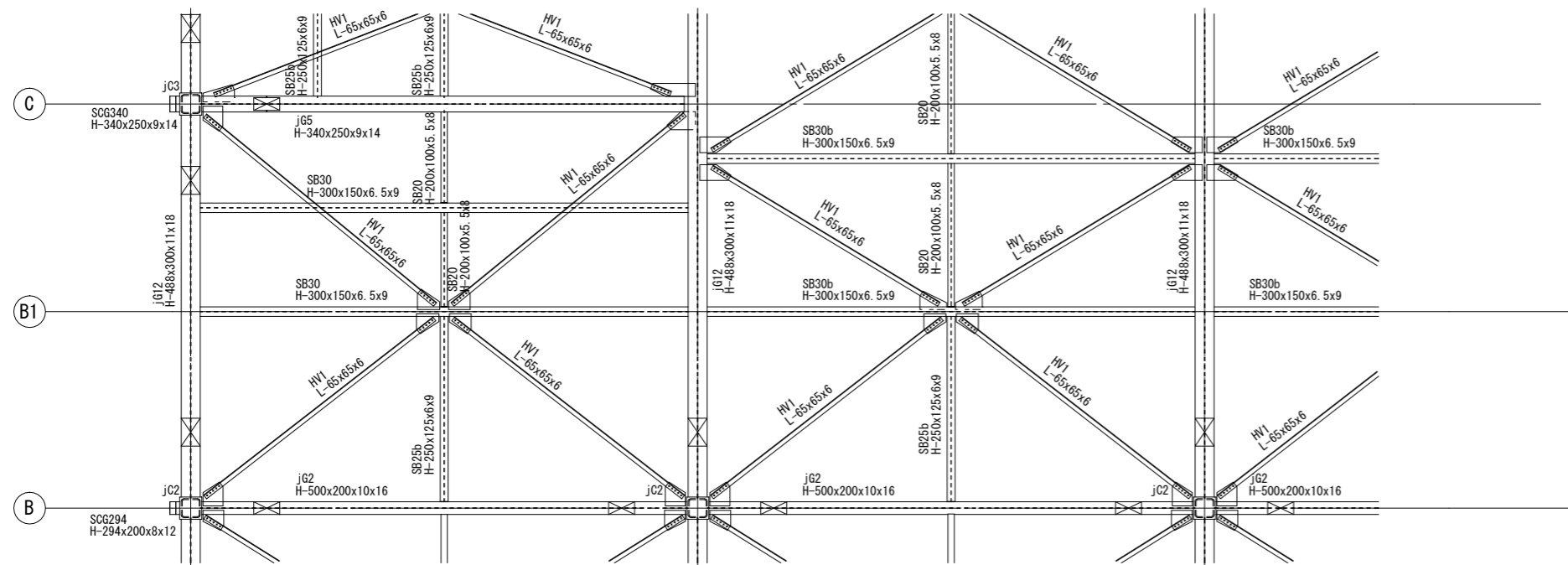
注) Tは取り付く大梁フランジのうち最大の厚みとする。



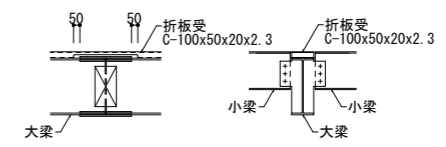
8通鉄骨軸詳細図(B)



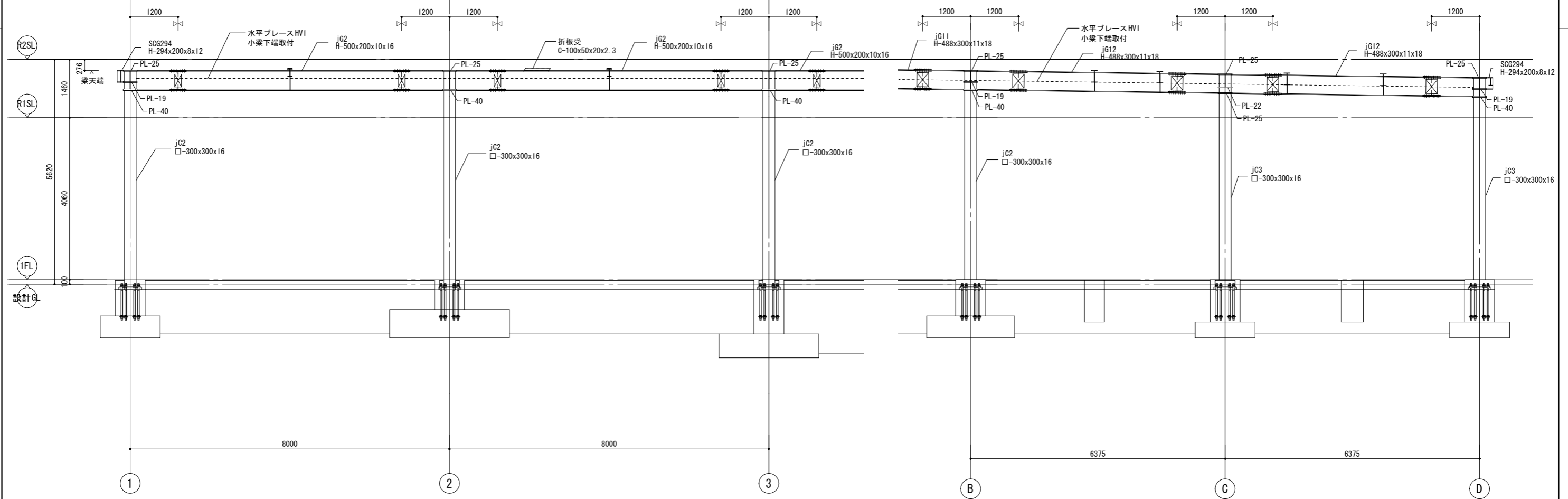
8通鉄骨軸詳細図(D)



R階柱梁伏図詳細図



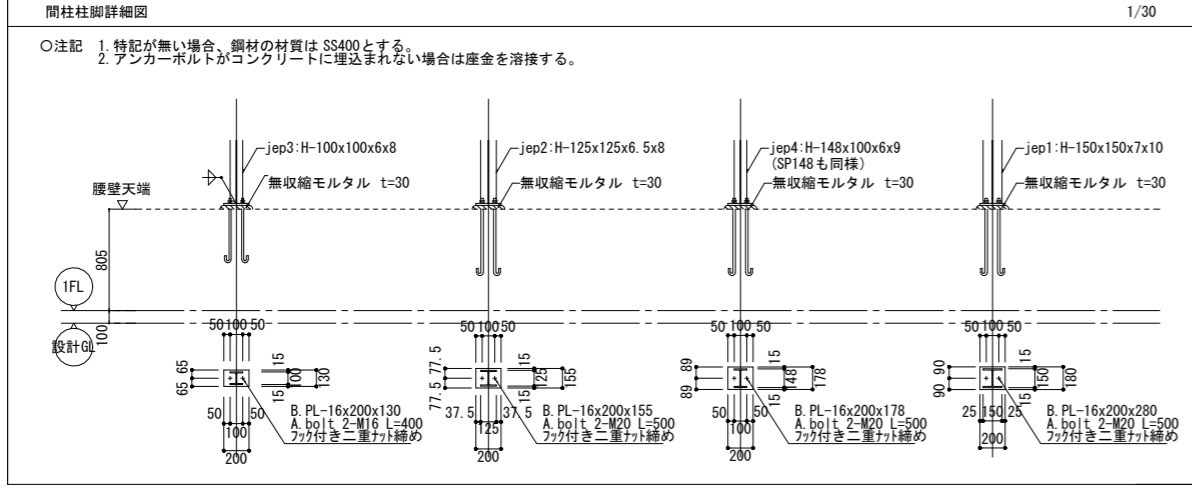
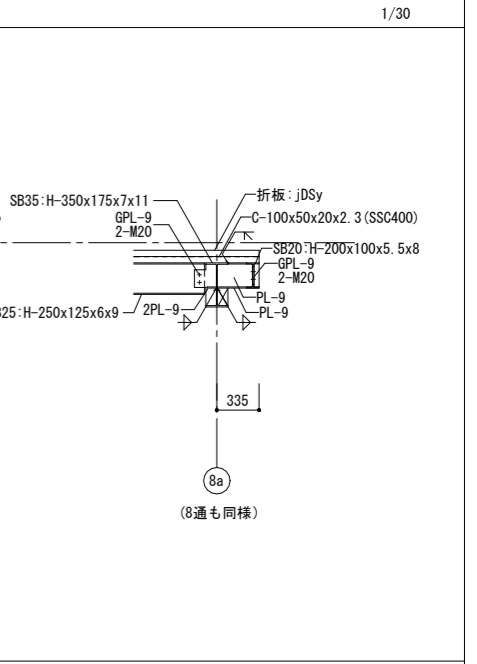
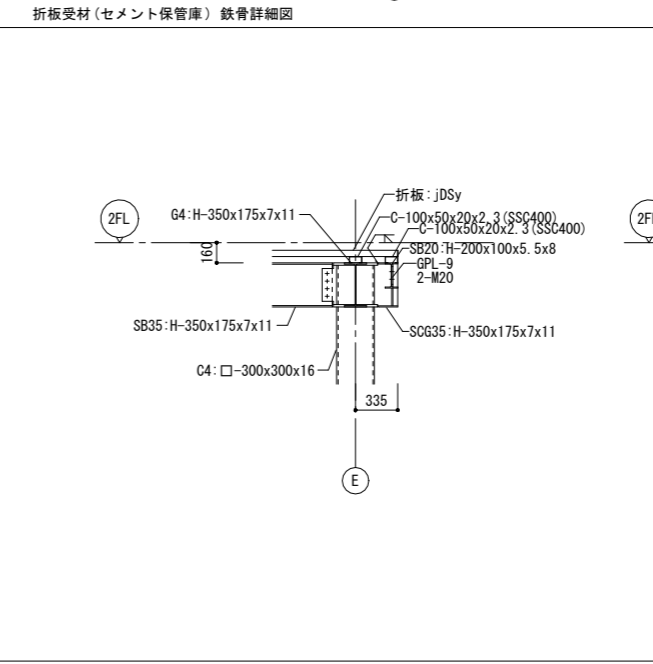
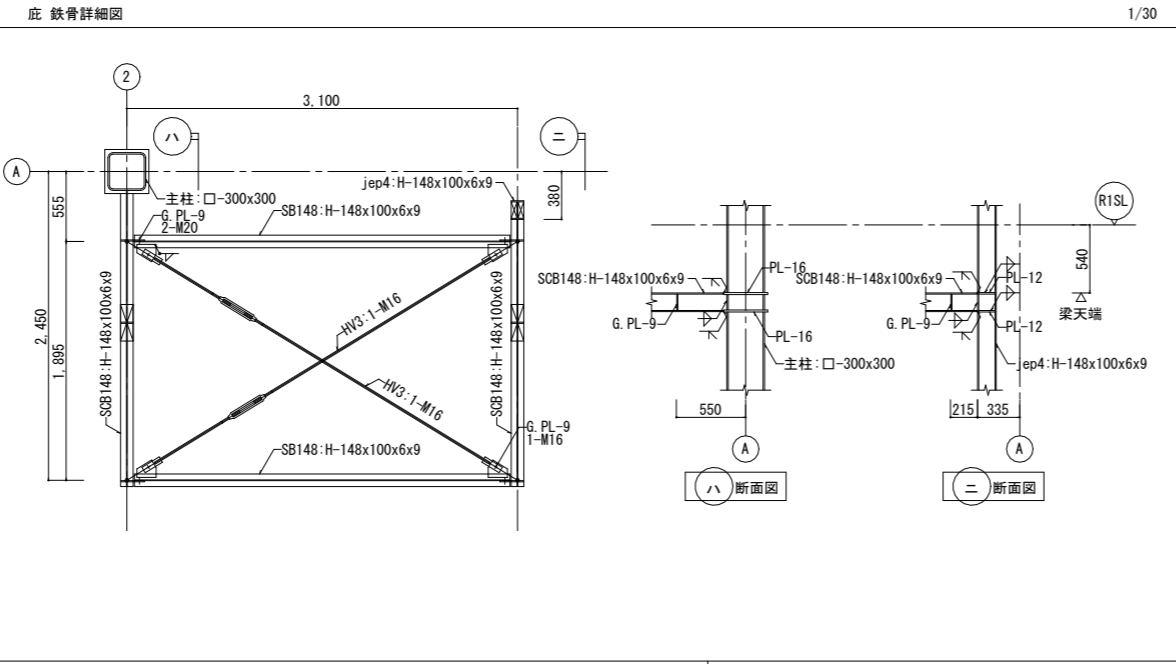
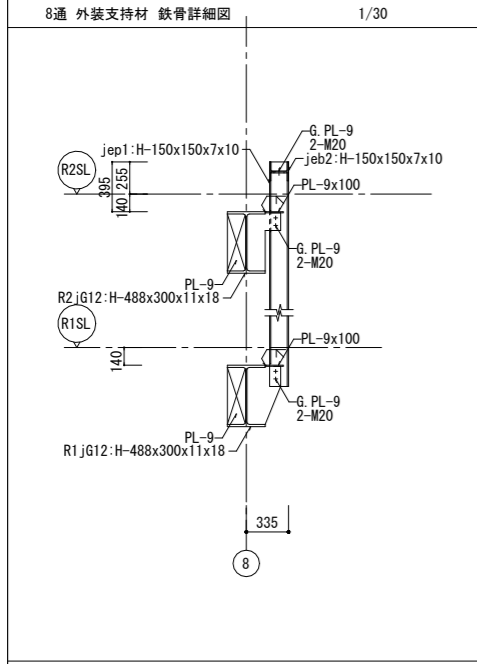
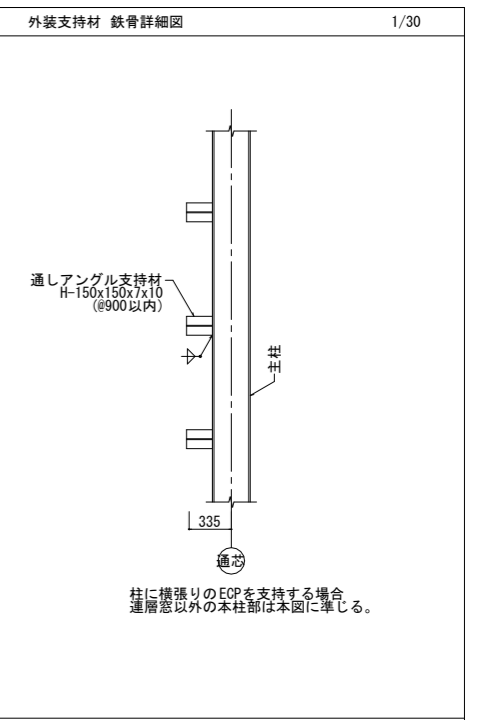
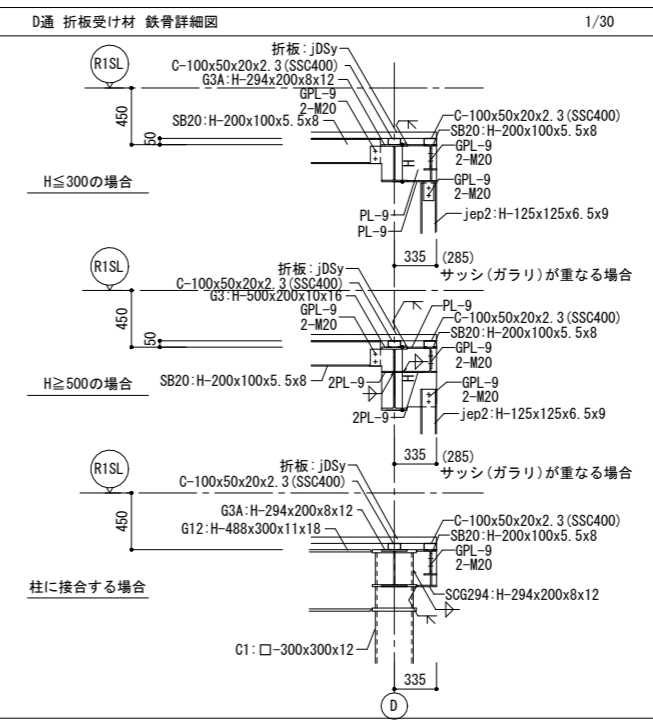
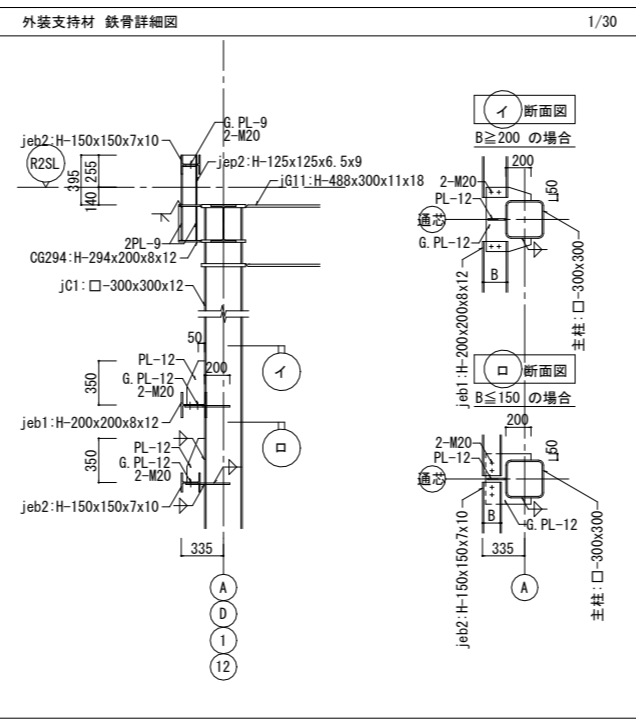
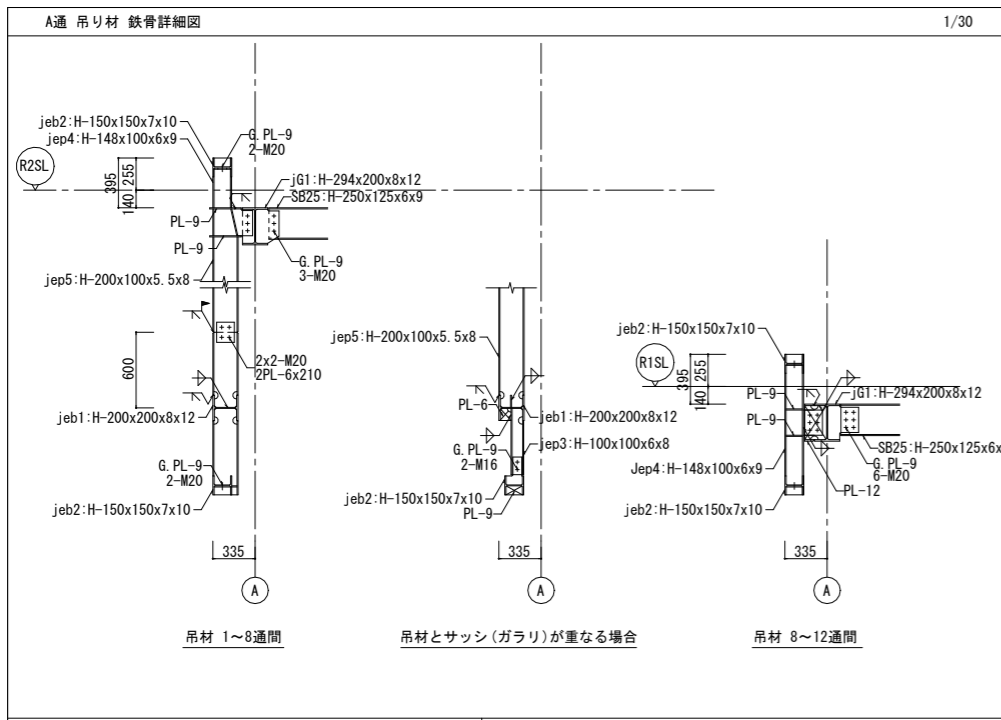
折板受詳細図 1/30

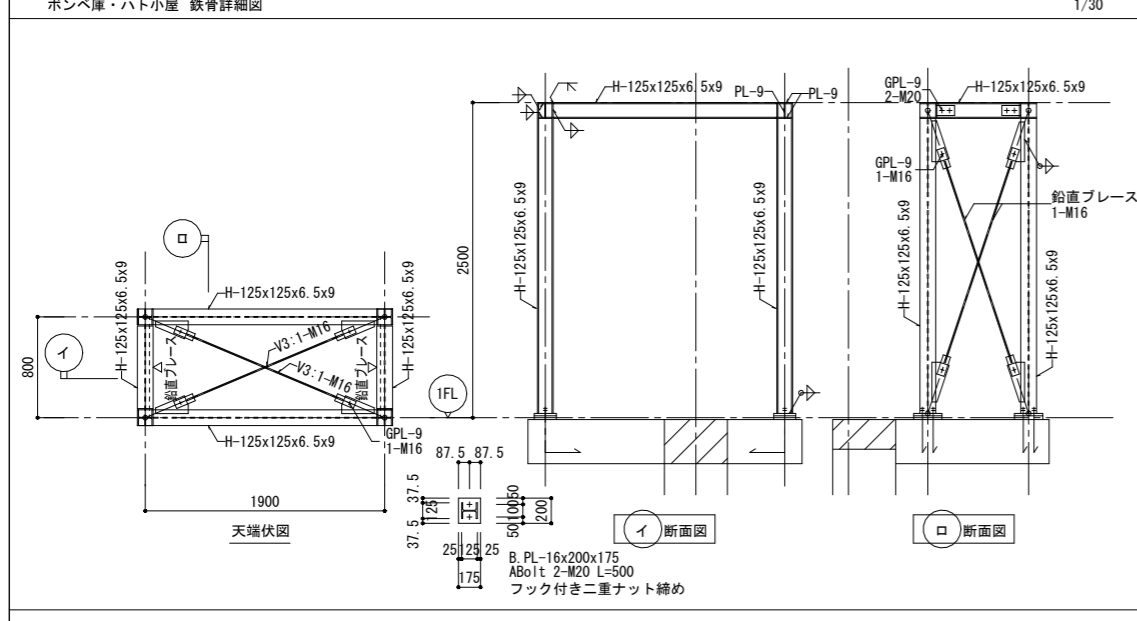
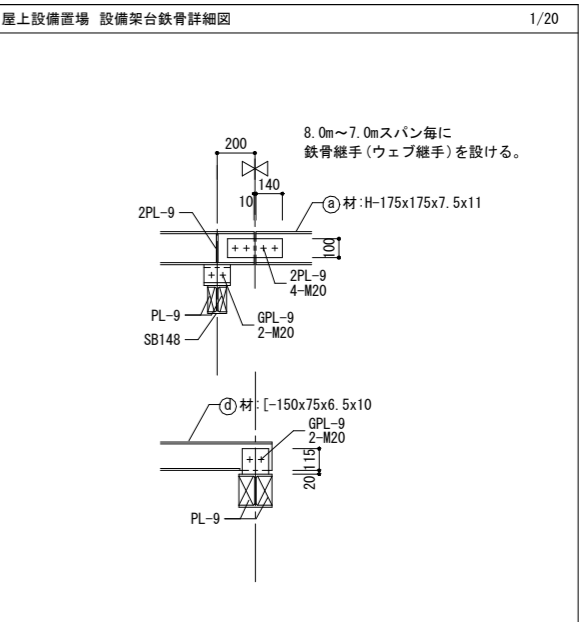
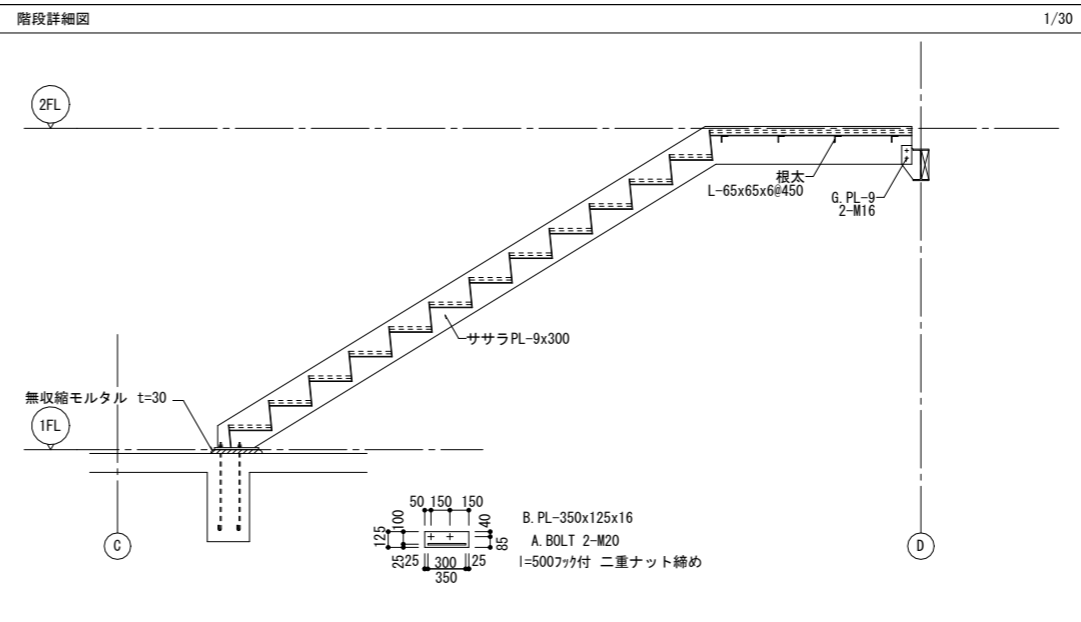
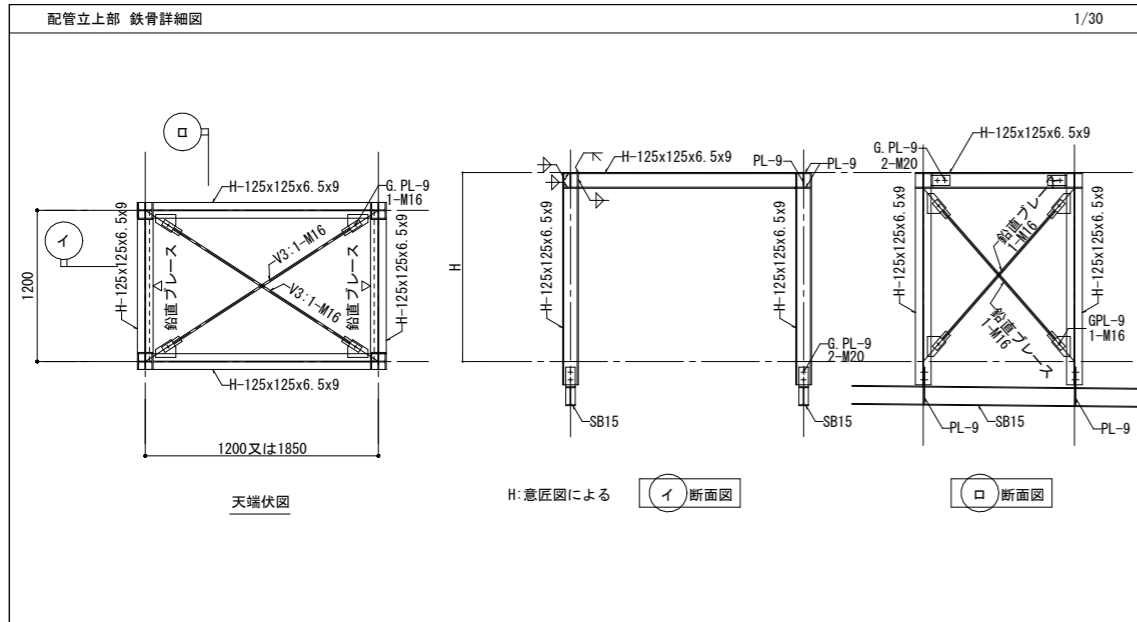


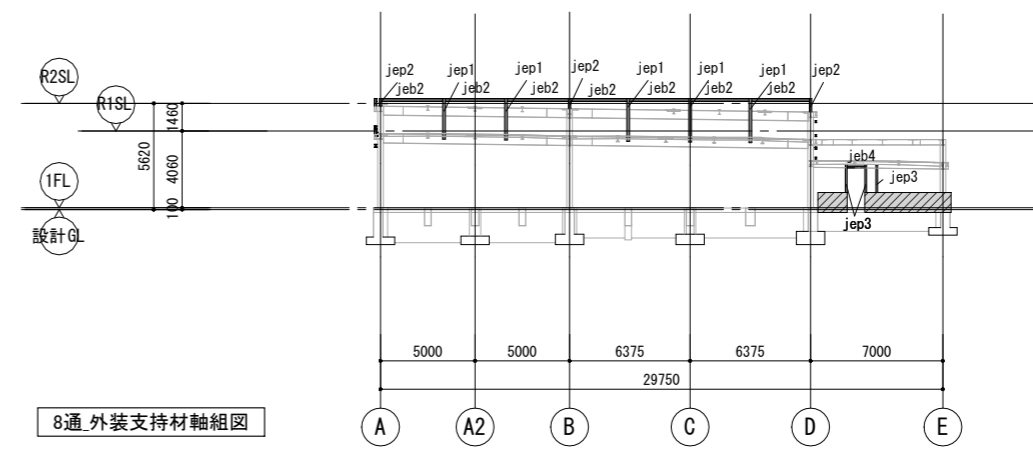
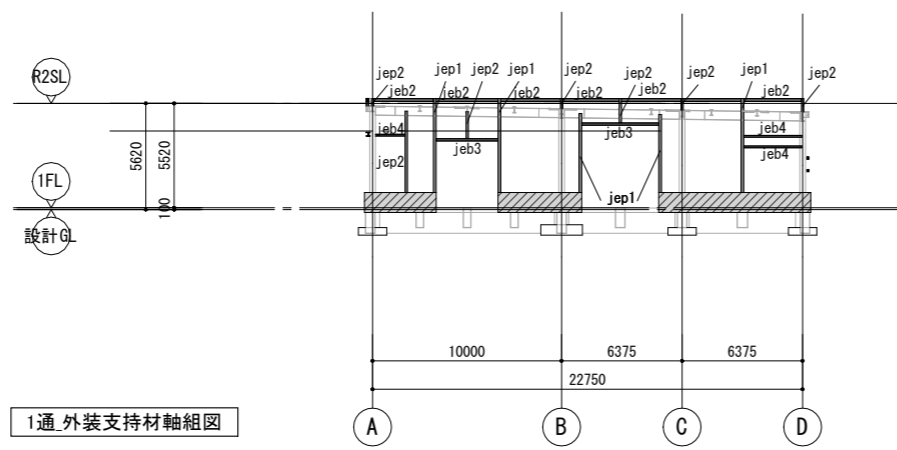
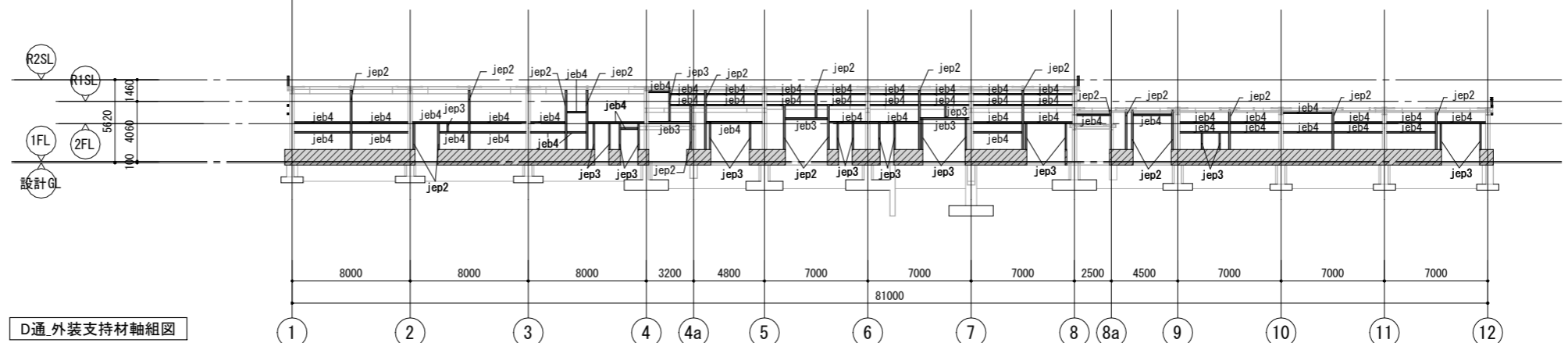
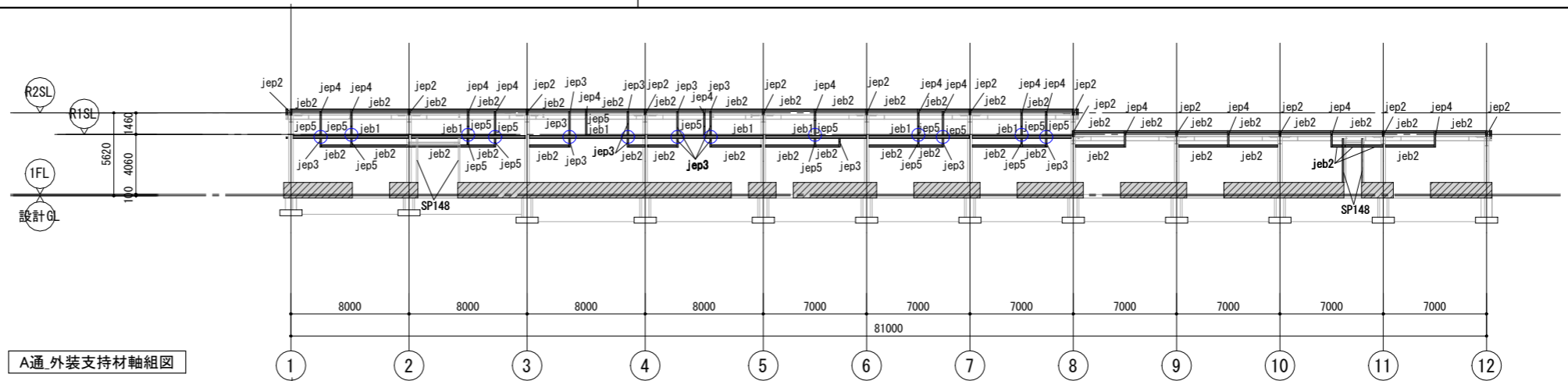
B通鉄骨詳細図

1通鉄骨詳細図

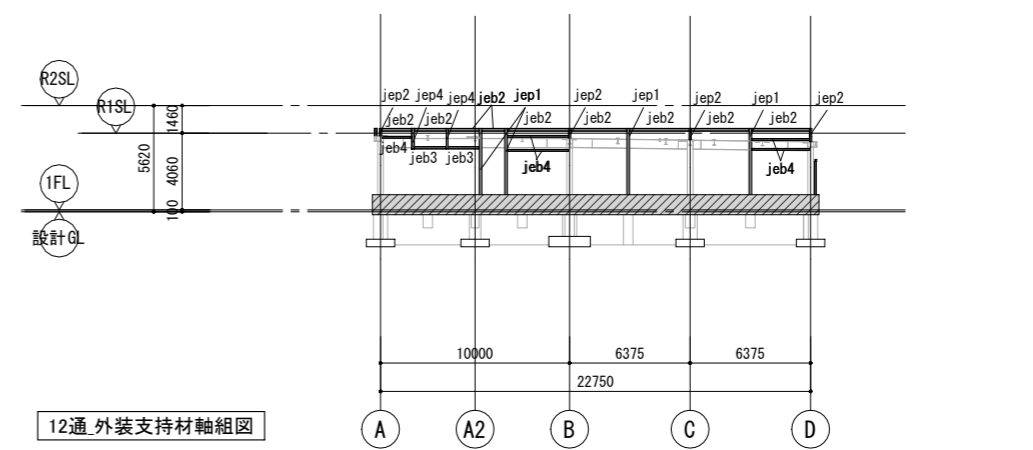
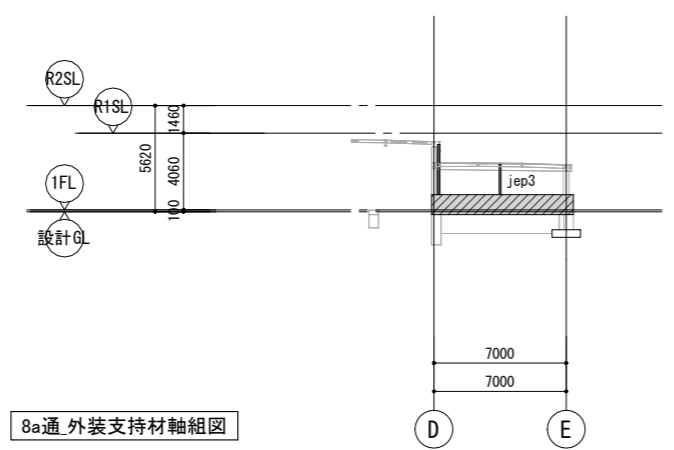
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開校準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3	一級建築士 No. 248486	一級建築士 No. 334956	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事 (第3工区)	図面番号 S117
			石井 康彦	構造設計一級建築士 No. 4009	設備設計一級建築士 No. 4756	図面名称 【実習工場・実験室棟】 鉄骨詳細図その1 縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	





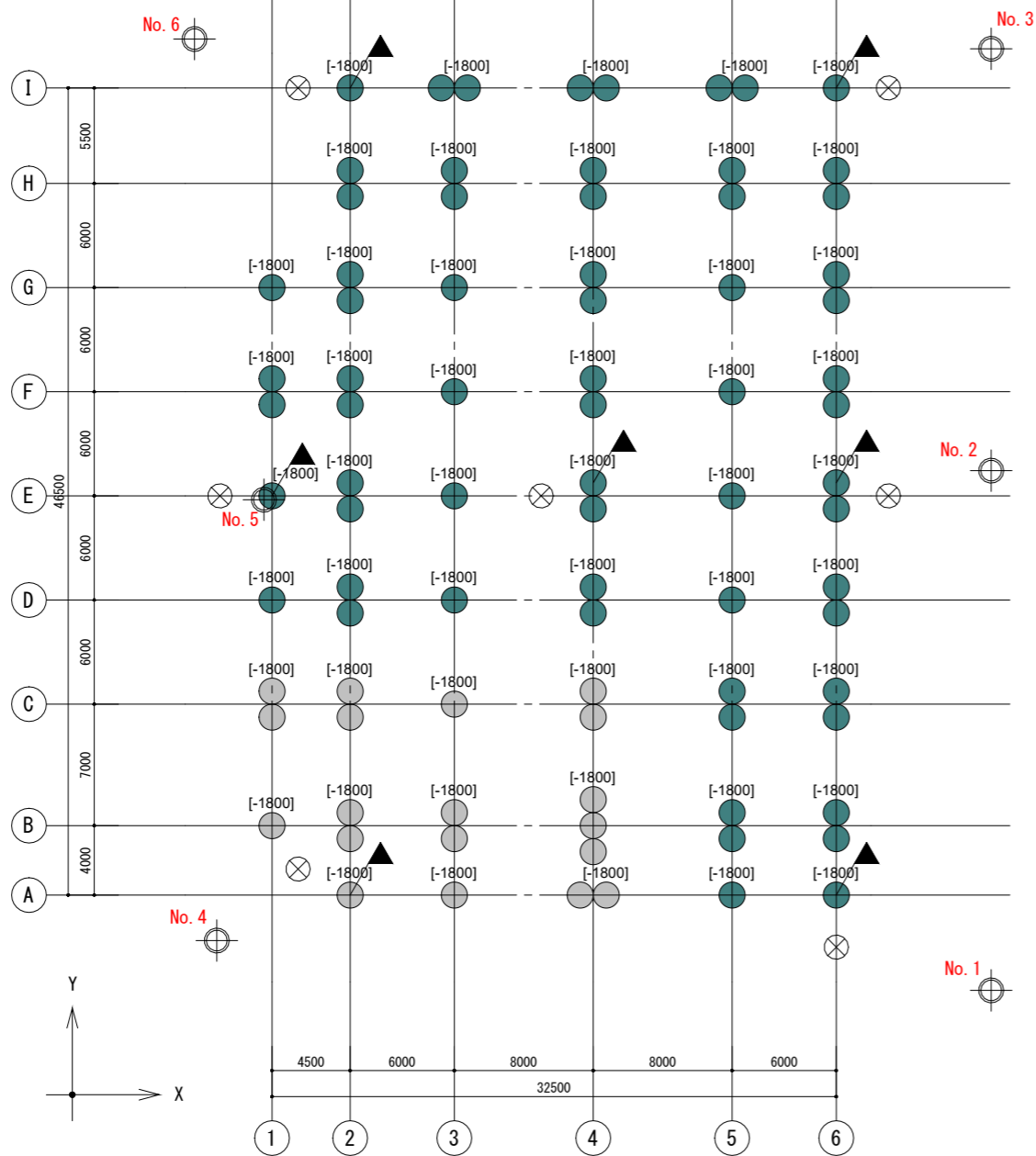


符号	鋼材種別	断面	仕口 (ピン接合)
jeb1	SS400	H-200x200x8x12 (横使い)	GPL-9, 2-M20
jeb2	SS400	H-150x150x7x10 (横使い)	GPL-9, 2-M20
jeb3	SS400	H-125x125x6.5x9 (横使い)	GPL-9, 2-M20
jeb4	SS400	H-100x100x6x8 (横使い)	GPL-9, 2-M16



符号	鋼材種別	断面	仕口 (ピン接合)
jep1	SS400	H-150x150x7x10	GPL-9, 2-M20
jep2	SS400	H-125x125x6.5x9	GPL-9, 2-M20
jep3	SS400	H-100x100x6x8	GPL-9, 2-M16
jep4	SS400	H-148x100x6x9	GPL-9, 2-M20
jep5	SS400	H-200x100x5.5x8	GPL-9, 6-M20

○注記
 1. 接合部の仕様は鉄骨詳細図参照。
 2. ○は剛仕口とする。



地盤改良伏図

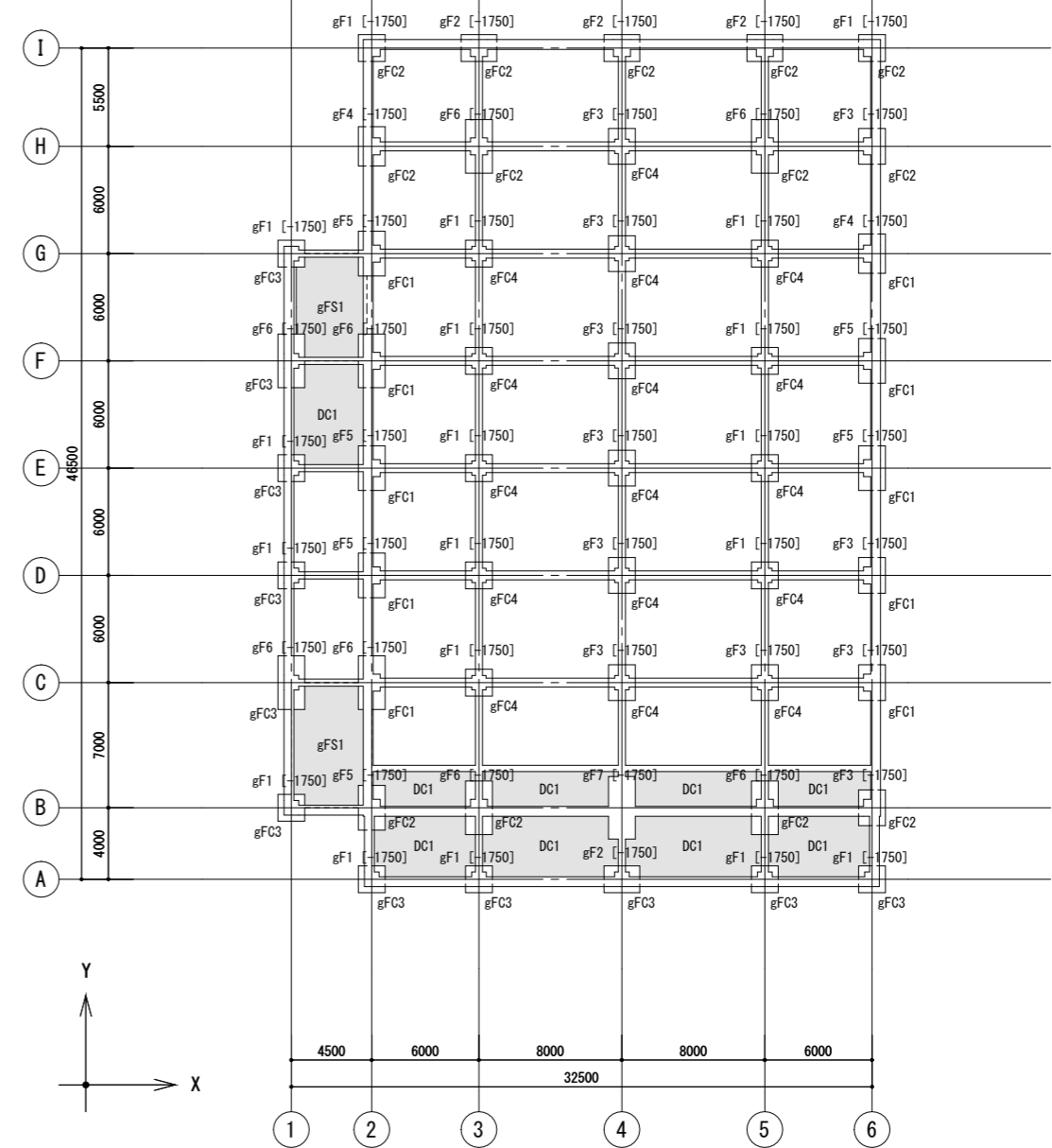
○注 記 (地盤改良伏図)

- 特記なき限り、下記による。
- 設計GL (=T.P.+98.77) = 1FL-100とする。
 - 改良径φ1500の柱状改良工法を採用し、長期許容支持力は350kN/m²とする。
 - 改良天端レベルは、基礎下端-50とし、[]内数値は、設計GLからの改良天端レベルを示す。
 - 改良体は接円配置とし、改良体群の圆心=基礎圆心とする。
 - 地盤改良長さは、凡例による。
 - 支持層の標高は土質柱状図により、支持層天端まで改良すること。

- ⊗は試験掘位置(7ヶ所)を示し、本施工に先立ち実施する。監督員と協議の上、支持層土質の採取・確認を行い、支持層の深さを決定する。
- ▲は試験施工位置(7ヶ所)を示し、本施工に先立ち実施する。施工手順の確認、掘削状況、着底管理等の確認を行う。
- ⊕は地盤調査位置を示す。

凡 例：想定地盤改良底レベル

- : 1FL-13.4 m
- : 1FL-15.5 m



基礎伏図
(見下げ図)

○注 記 (基礎伏図)

特記なき限り、下記による。

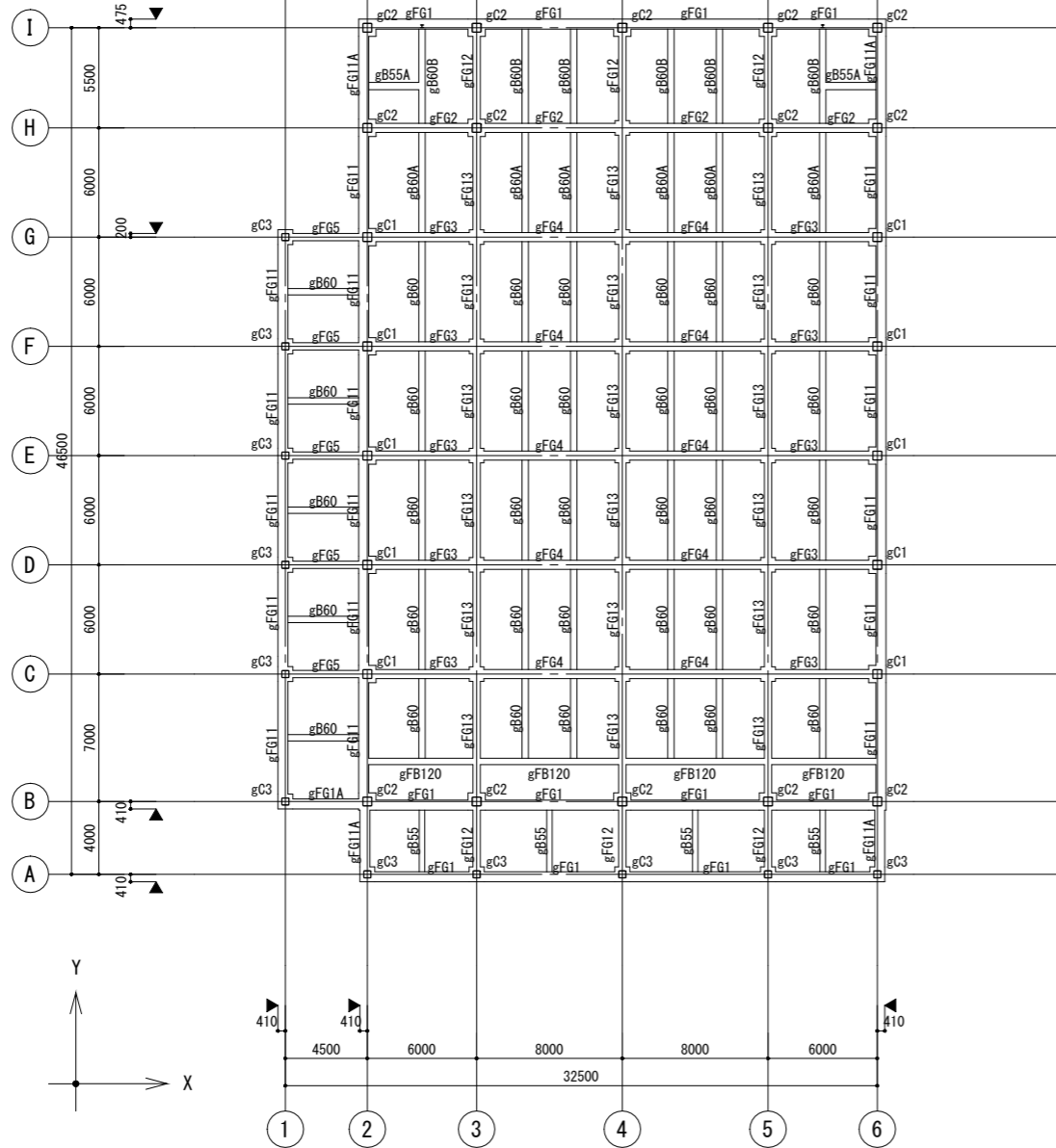
- 1FL = 設計GL+100
- 基礎芯=通芯とする。
- []内数値は、1FLからの基礎下端レベルを示す。

- DC1はビット部土間コンクリート t150を示す。
- 底版天端レベルは、1FL-1850とする。
- 底版符号の無い範囲は、埋戻しとする。

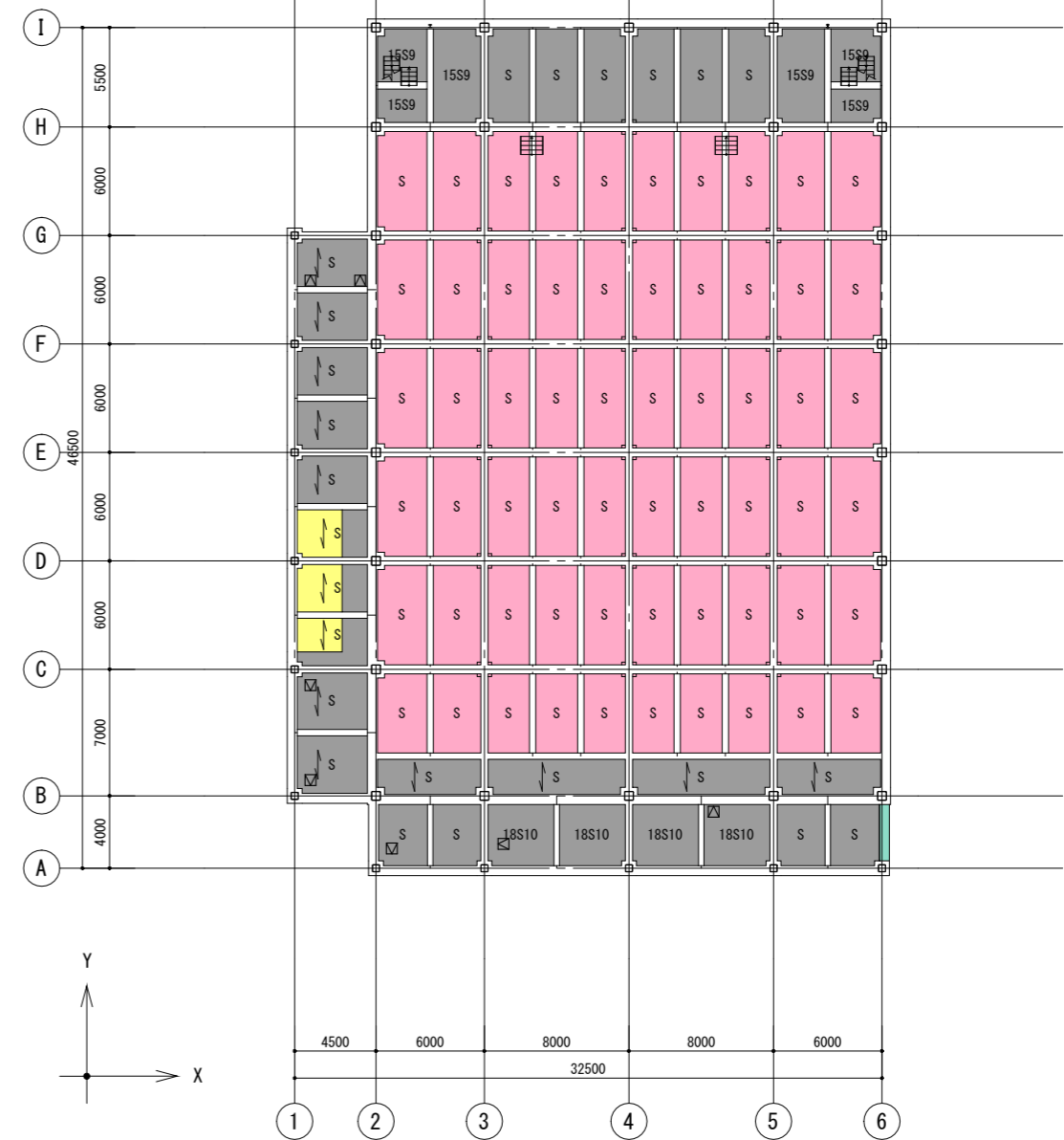
凡 例：スラブ天端レベル

- : 1FL-1500

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3 一級建築士 No. 272847 石井 康彦	一級建築士 No. 248486 構造設計一級建築士 No. 4009 木下 隆嗣	一級建築士 No. 334956 設備設計一級建築士 No. 4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事 (第3工区) 図面名称 【体育館】地盤改良伏図・基礎伏図	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S201
-----------------------------------	--	---	---	---	---	---	---------------------------	--------------



1階柱梁伏図(柱梁符号図)
(見下げ図)



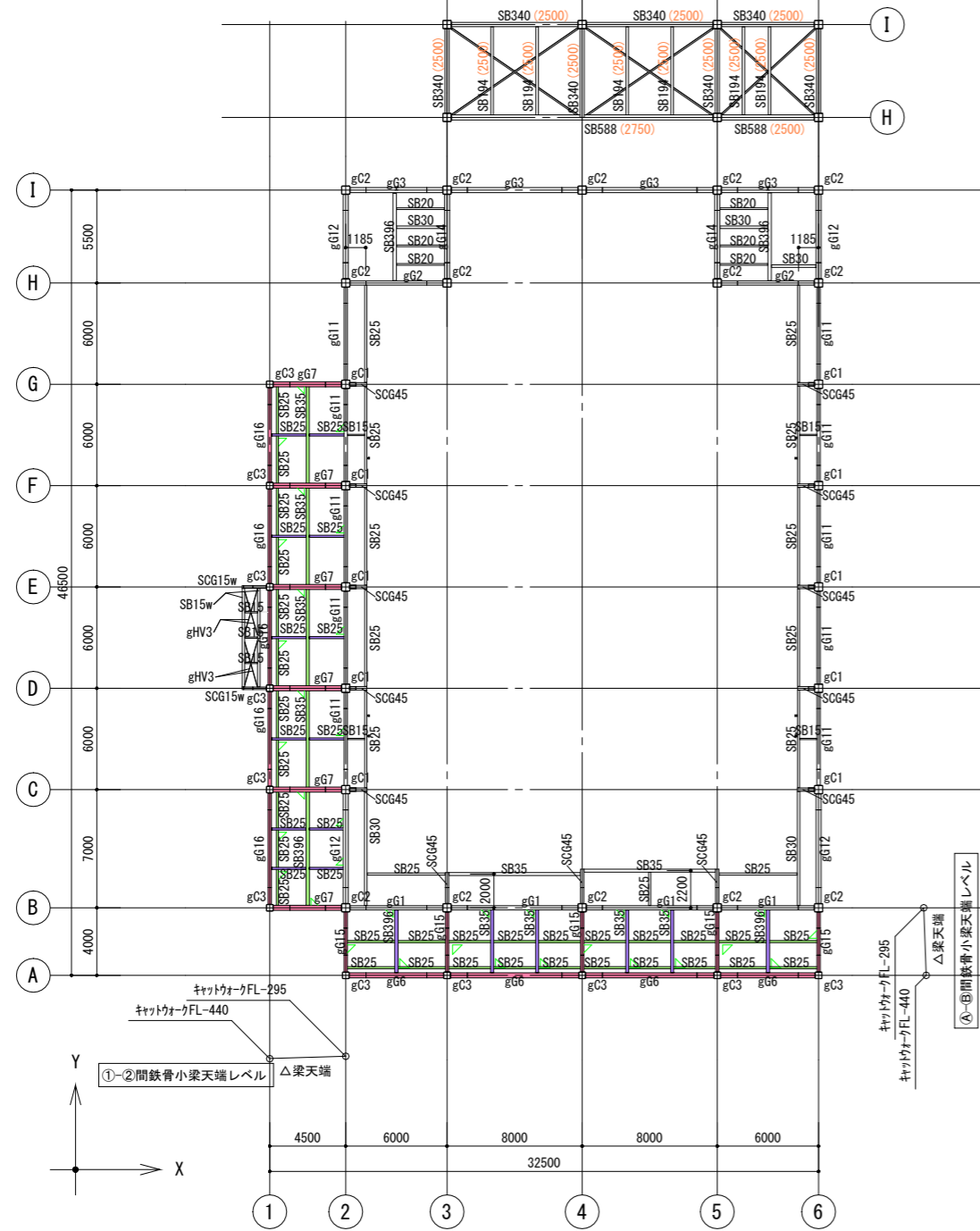
1階床伏図(スラブ符号図)
(見下げ図)

○注 記 (1階床伏図)
特記なき限り、下記による。
1. 通芯=基礎芯=柱芯=梁芯を示す。
2. ▶ は梁面を示す。
3. 基礎梁 (FG符号) 天端レベルは1FL-450とする。
4. RC小梁 (B符号) 天端レベルは、スラブ天端レベルと同じとし、RC基礎小梁 (FB符号) 天端レベルは、スラブ底とする。
5. スラブ天端とRC天端が異なる場合は、梁上増打ちとする。

○注 記 (1階床伏図)
特記なき限り、下記による。
1. スラブ符号例 (DC・FSの配筋及び厚さは詳細図による)
⑩ S ① — 在来型枠スラブ (S, CS符号) 配筋種別 (S004図による)
— スラブ厚 (cm)
2. スラブ符号Sは15S11を示す。
3. ↓ は主筋方向を示し、特記なき場合は X方向とする。

凡 例 : スラブ天端レベル
■ : 1FL-15
■ : 1FL-50
■ : 1FL-250
■ : 1FL-300

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOMIYAMA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3 一級建築士 No. 272847 石井 康彦	一級建築士 No. 248486 構造設計一級建築士 No. 4009 木下 隆嗣	一級建築士 No. 334956 設備設計一級建築士 No. 4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事 (第3工区) 図面名称 【体育館】1階床伏図 (柱梁符号図・スラブ符号図) 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S202
-----------------------------------	--	---	---	---	---	---	--------------



キャットウォーク階柱梁伏図(柱梁符号図、接合部仕様図)
(見上げ図)

○注 記 (キャットウォーク階床伏図)

- 特記なき限り、下記による。
 1. 通芯=柱芯=梁芯(ウェブ芯)とする。
 2. ㄷは梁芯を示す。
 3. 鉄骨梁天端レベルはキャットウォークFL-165とする。
 4. 水平ブレース符号はHV1とする。
 5. ()内数値はキャットウォーク階からの梁天端レベルを示す。
 6. 鉄骨梁端部の 印は大梁の横補剛を示す。

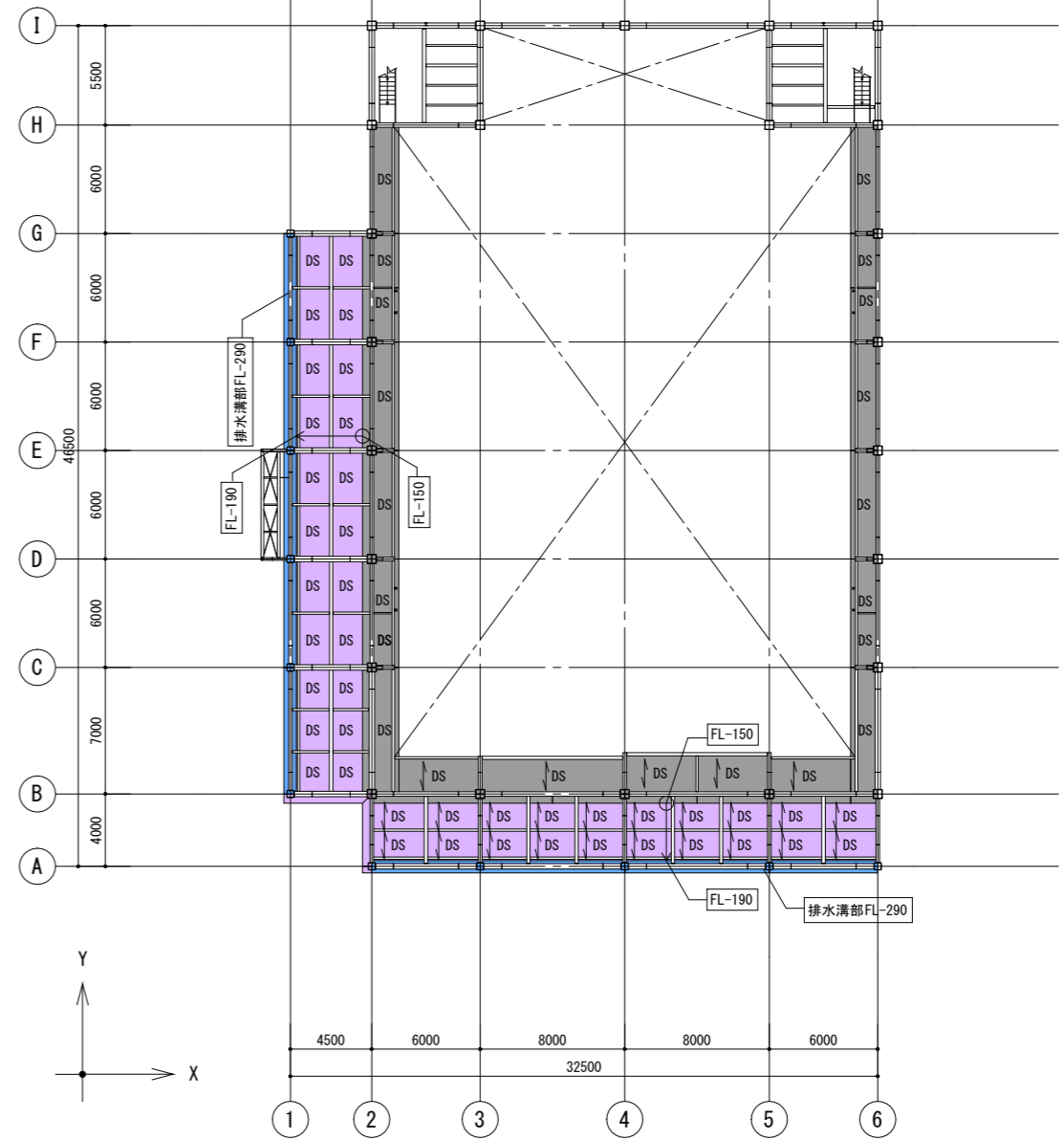
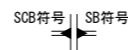
凡 例：大梁天端レベル

- : キャットウォークFL-320
- : キャットウォークFL-365
- : キャットウォークFL-440
- : キャットウォークFL-440~295

凡 例：接合部仕様

- : 剛接合
- : ピン接合
- : 大梁の横補剛(方杖タイプ)

右図：SCB(CG)符号とSB符号の剛接合
 記号なし：大梁(G符号)は剛接合、小梁(SB符号)はピン接合
 SCB,CGの接合端側は、原則として剛接合とする。



キャットウォーク階床伏図(スラブ符号図)
(見上げ図)

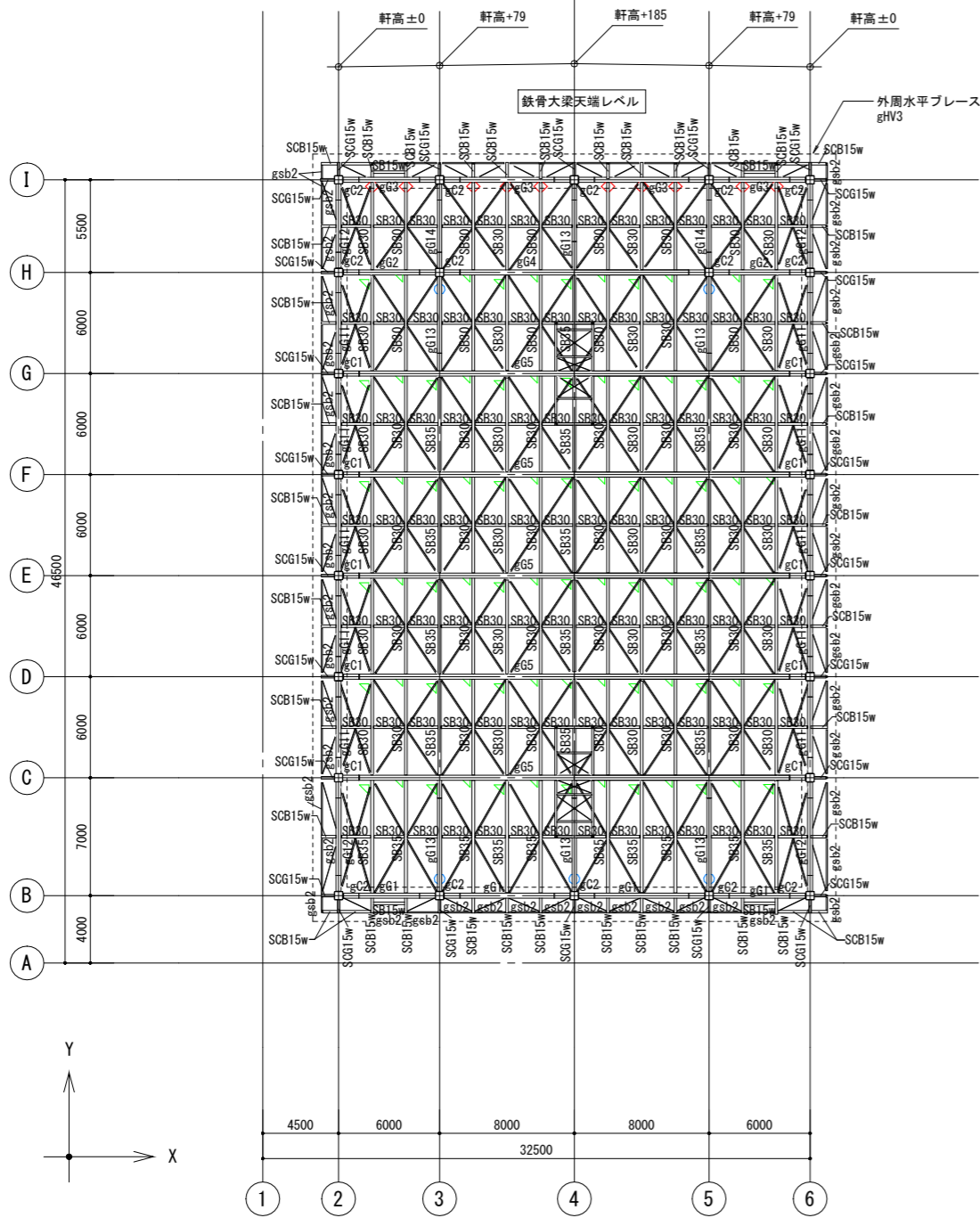
○注 記 (キャットウォーク階床伏図)

- 特記なき限り、下記による。
 1. 通芯=柱芯=梁芯(ウェブ芯)とする。
 2. 鉄骨小梁天端レベルは、原則としてスラブ下端とする。
 3. スラブ下端と鉄骨梁天端が異なる場合は、デッキスラブ段差仕様による。
 4. はスラブ用デッキの敷き方向を示し、特記の無い場合は敷き方向は X方向とする。
 5. スラブ符号DSはDS1を示す。
 6. は、スラブ勾配を示す。
 7. 内数値はスラブレベルを示す。

凡 例：スラブ天端レベル

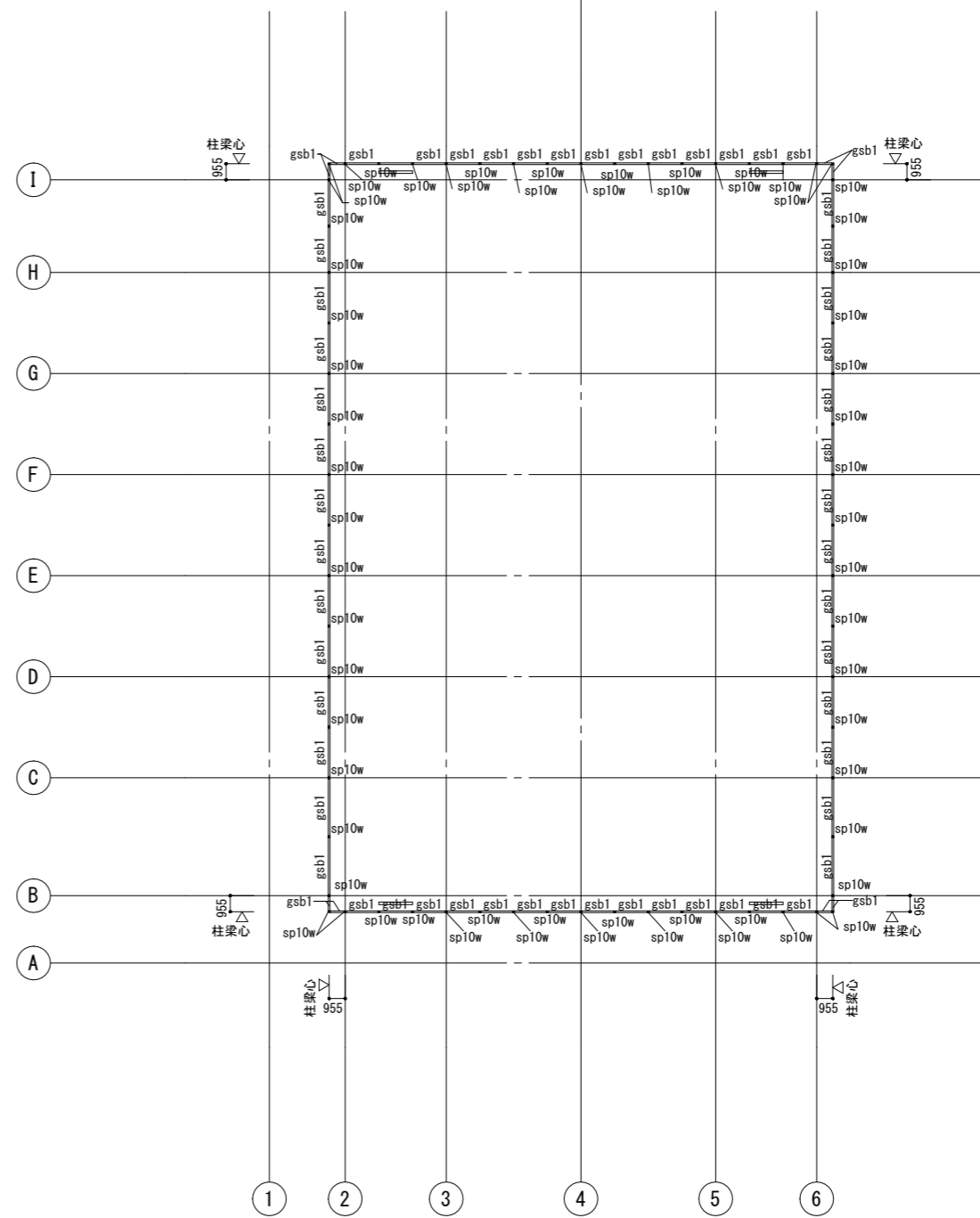
- : キャットウォークFL-15
- : キャットウォークFL-290
- : キャットウォークFL-150~190
- : スラブ無し

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOMIYAMA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC. 石井 康彦	設計番号 20240631-3 一級建築士 No.272847 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第3工区) 図面名称 【体育館】キャットウォーク階床伏図(柱梁符号図・スラブ符号図・接合部仕様図) 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S203
-----------------------------------	--	--	---	---	---	--------------



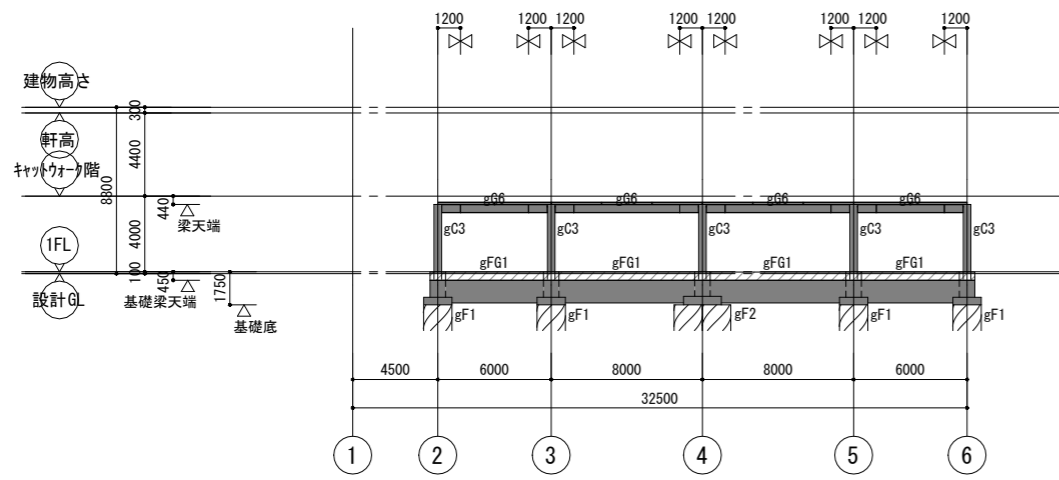
軒高柱梁伏図(柱梁符号図、接合部仕様図)
(見上げ図)

- 注 記 (軒高階床伏図)
特記なき限り、下記による。
1. 通芯=柱芯=梁芯(ウェブ芯)とする。
 2. ㄩは梁芯を示す。
 3. 鉄骨梁天端レベルは図示による。
 4. 鉄骨小梁天端レベルは、大梁天端レベル +50とする。
 5. SCB, CGの接合端側は、原則として剛接合とする。
 6. 水平ブレース符号はgHV2とする。
 7. QLルーフのデッキ敷方向はX方向とする。
 8. 鉄骨梁端部の 印は大梁の横補剛を示す。
 9. 鉄骨梁端部の 印は大梁のピン接合を示す。

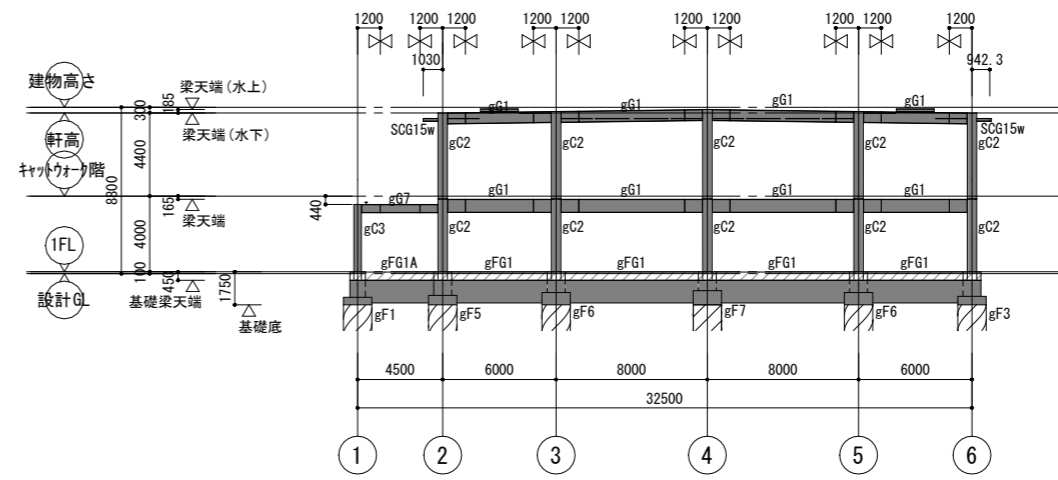


軒高柱梁伏図(柱梁符号図、接合部仕様図)
(見上げ図)

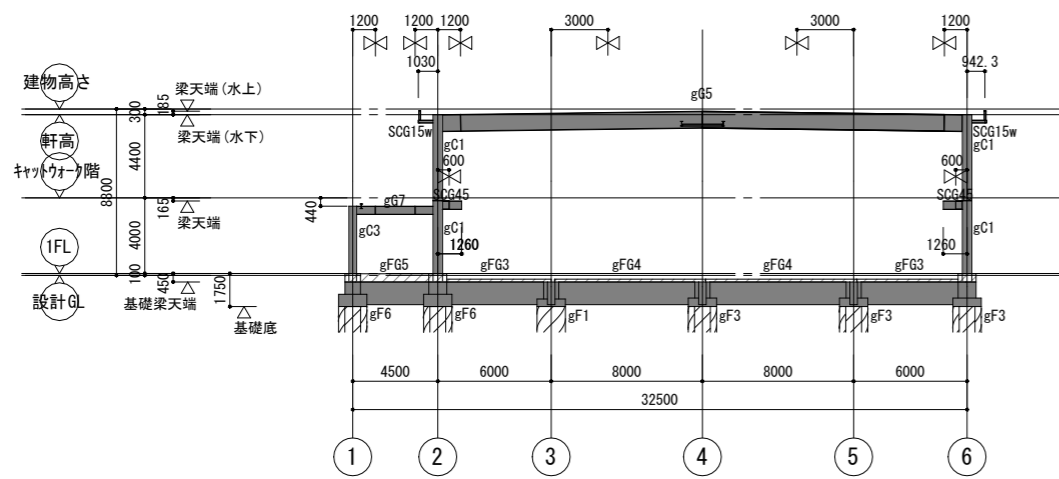
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事 (第3工区)	図面番号 S204
			一級建築士 No.272847 石井 康彦	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	



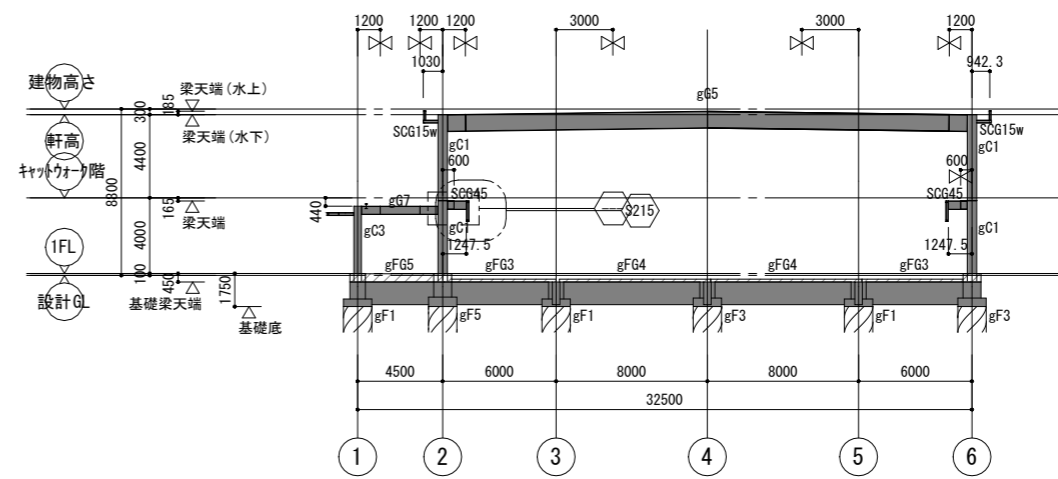
A通軸組図



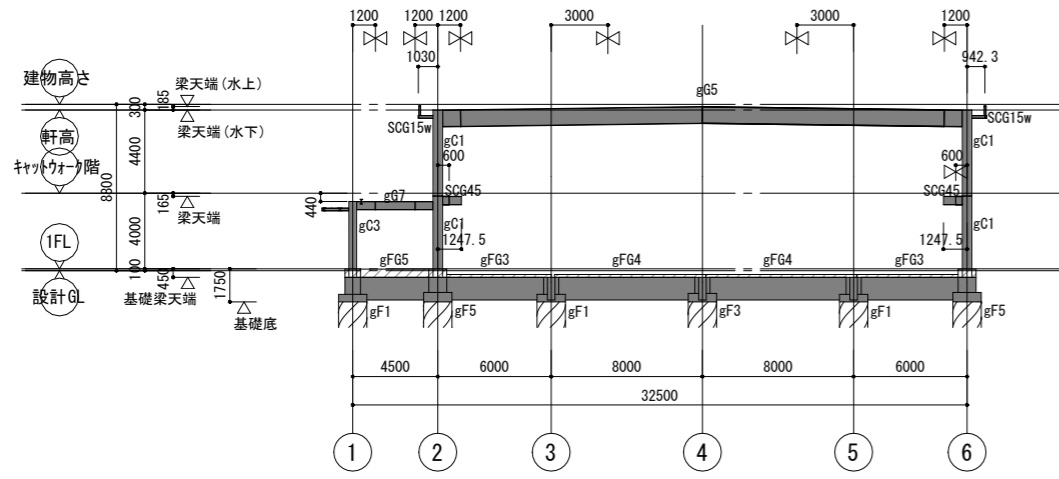
B通軸組図



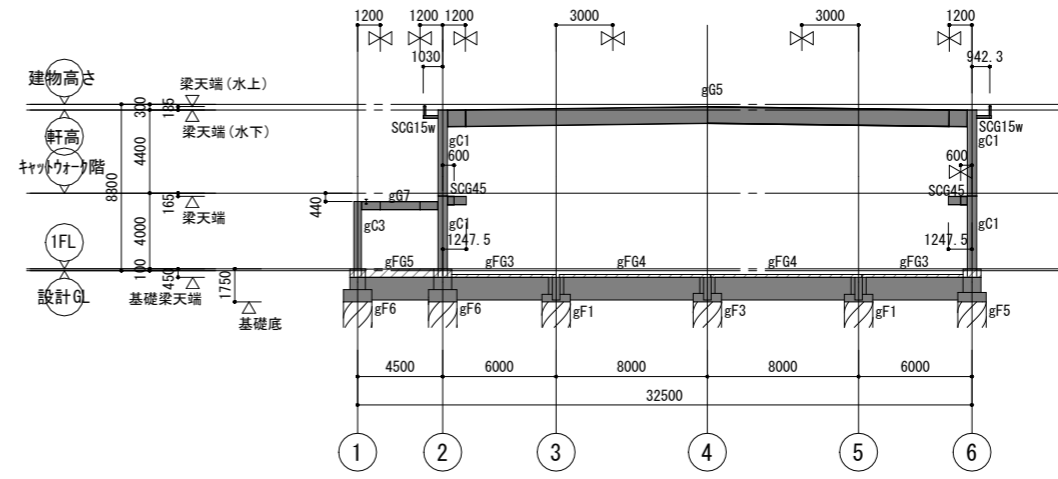
C通軸組図



D通軸組図



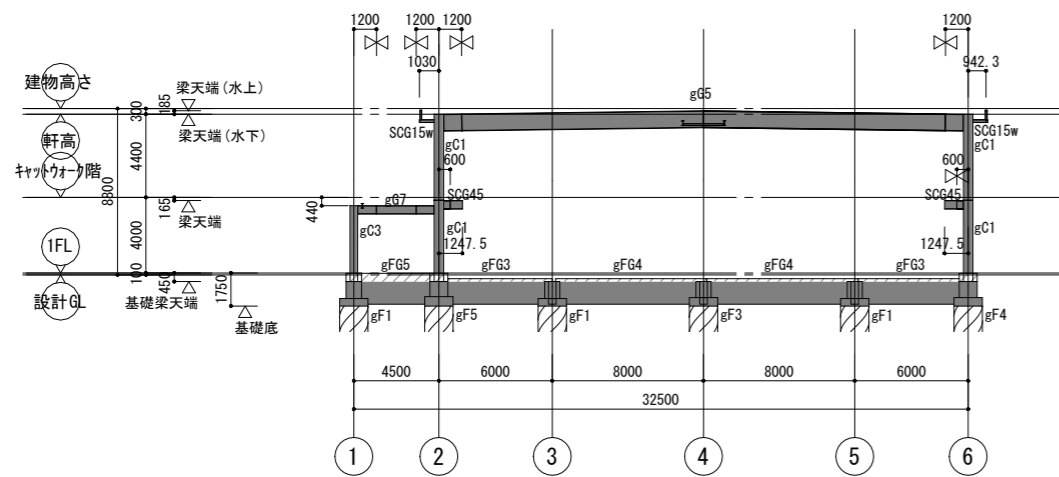
E通軸組図



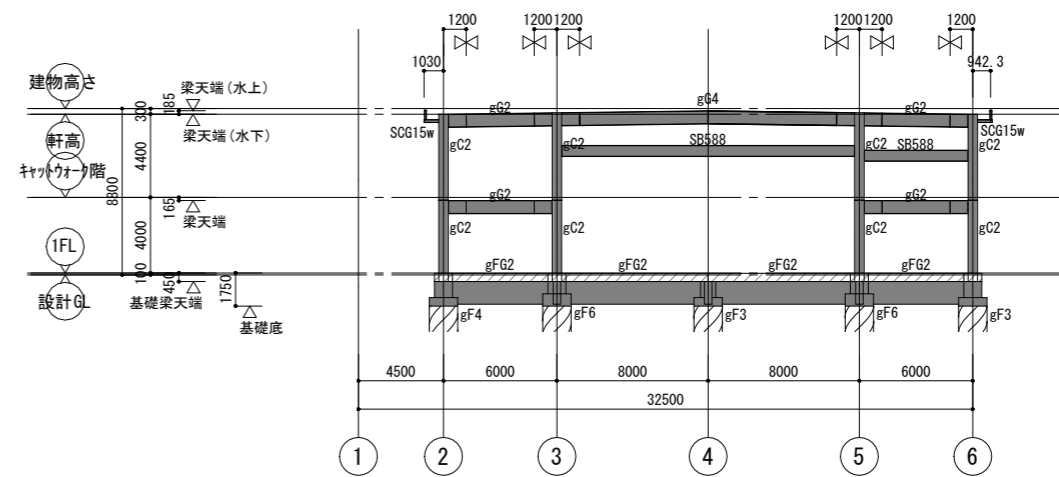
F通軸組図

軸組図共通事項
 特記なき限り、下記による。
 1. △：梁天端レベルを示す。
 2. ※：鉄骨現場継手位置を示す。
 3. 通芯=基礎芯=柱芯とする。
 4. 継手は二次部材と干渉する場合、現場溶接継手とする。
 5. BPL下端レベルは、取合う梁のうち最も高い基礎梁天端 +50とする。
 6. ()内数値は、RFLからの梁の天端レベルを示す。

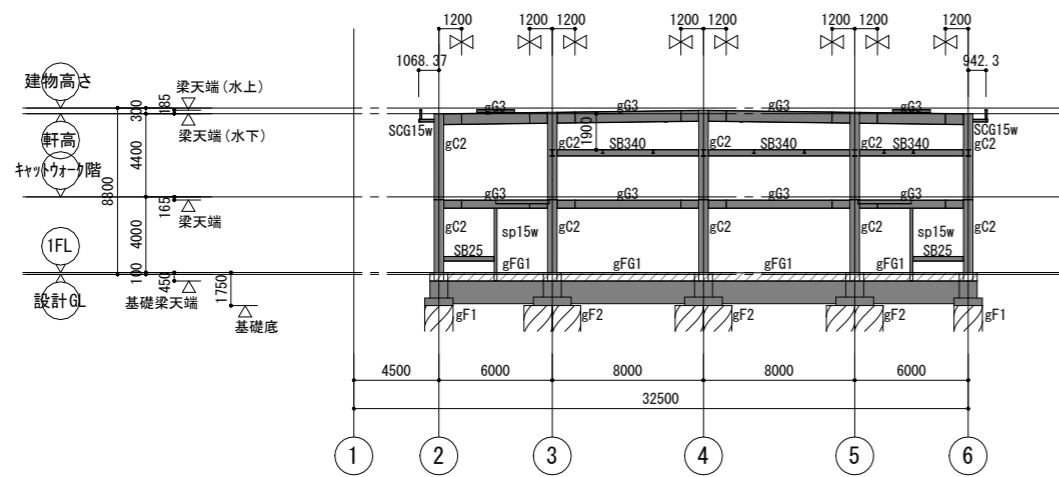
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3 一級建築士 No. 272847 石井 康彦	一級建築士 No. 248486 構造設計一級建築士 No. 4009 木下 隆嗣	一級建築士 No. 334956 設備設計一級建築士 No. 4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事 (第3工区) 図面名称 【体育館】軸組図 その1 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S205
-----------------------------------	---	---	---	---	--	--------------



G通軸組図

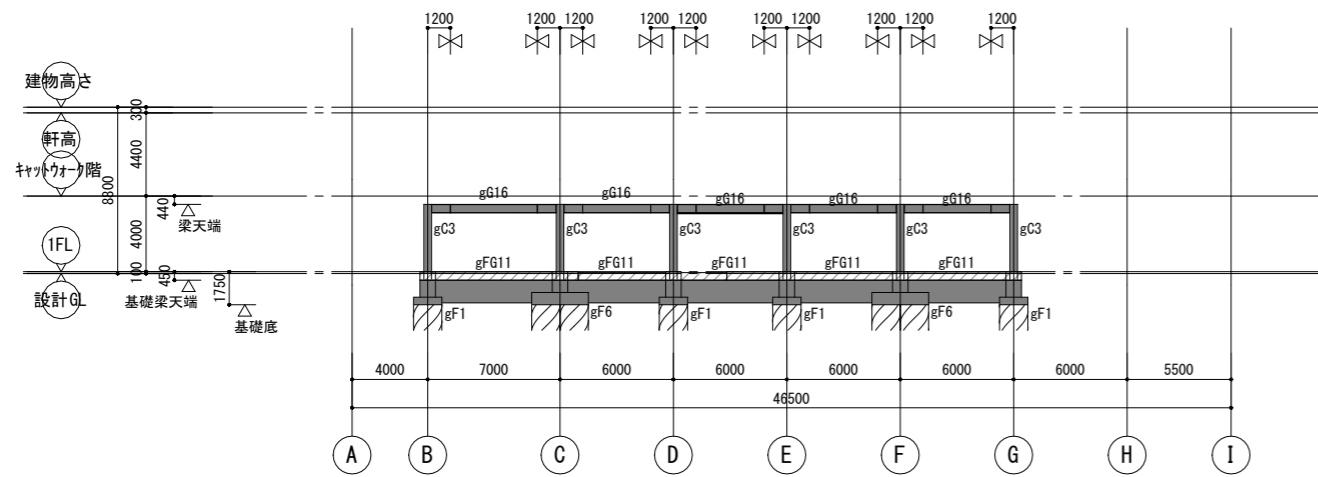


H通軸組図

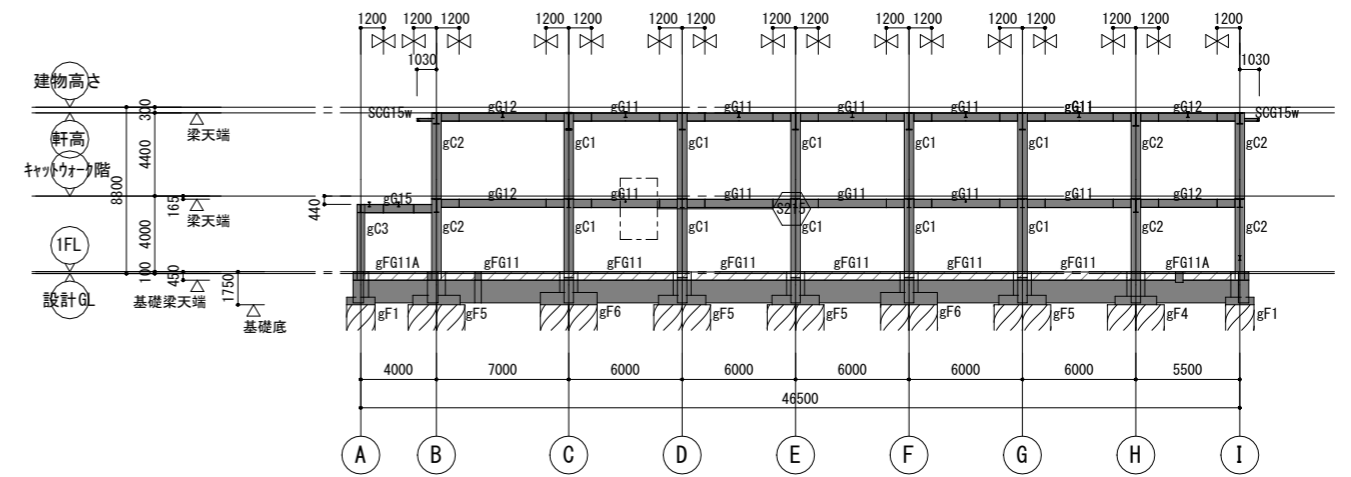


I通軸組図

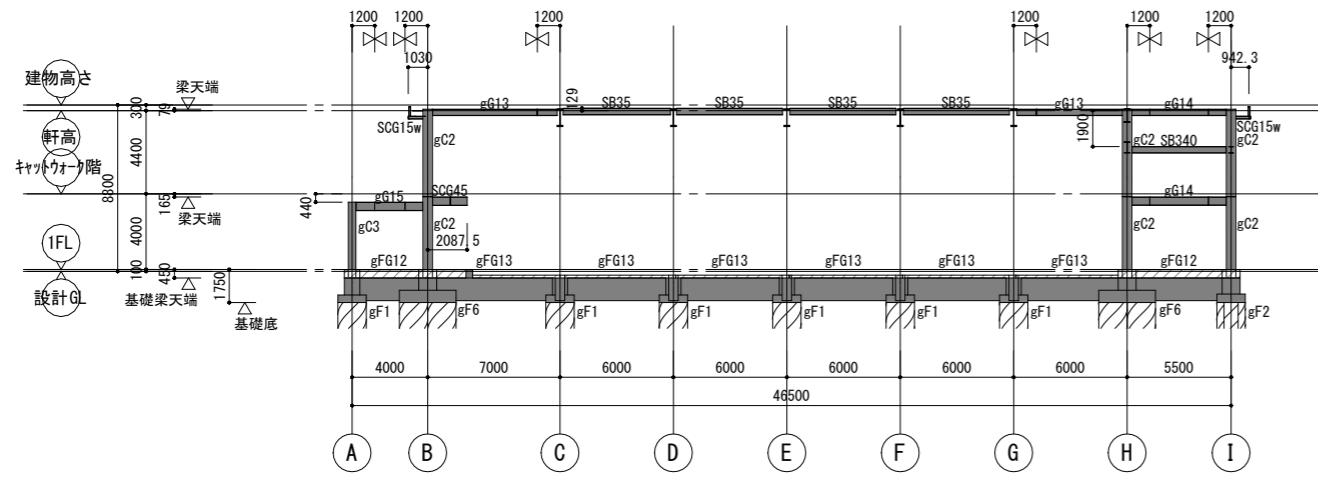
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOMIYAMA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3	一級建築士 NO.248486	一級建築士 NO.334956	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事 (第3工区) 図面名称 【体育館】軸組図 その2 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S206
			一級建築士 NO.272847	構造設計一級建築士 NO.4009	設備設計一級建築士 NO.4756		
			石井 康彦	木下 隆嗣	工藤 征志		



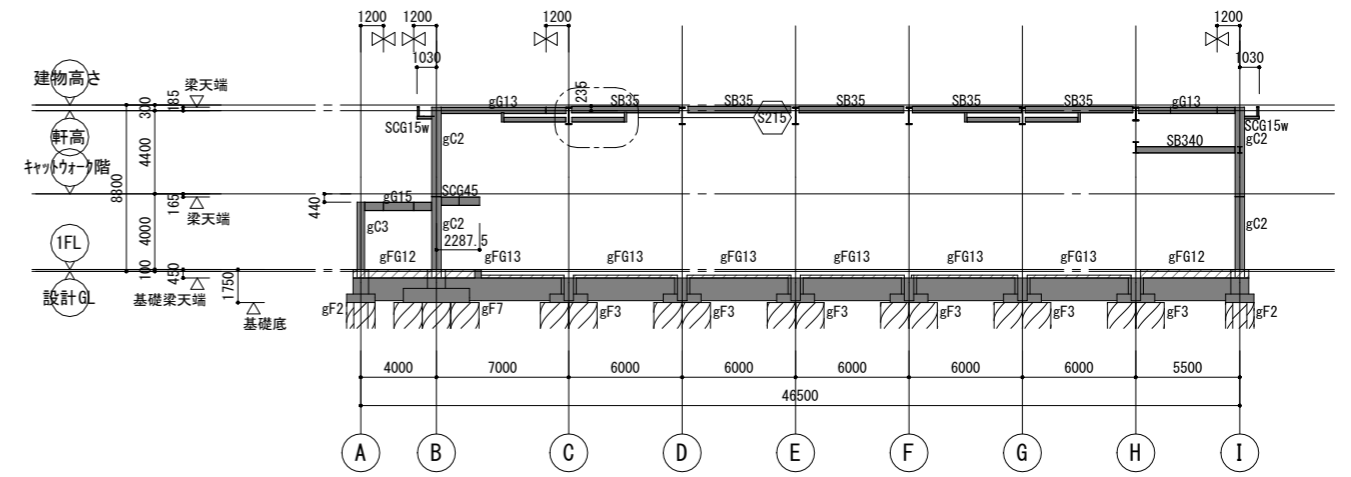
1通軸組図



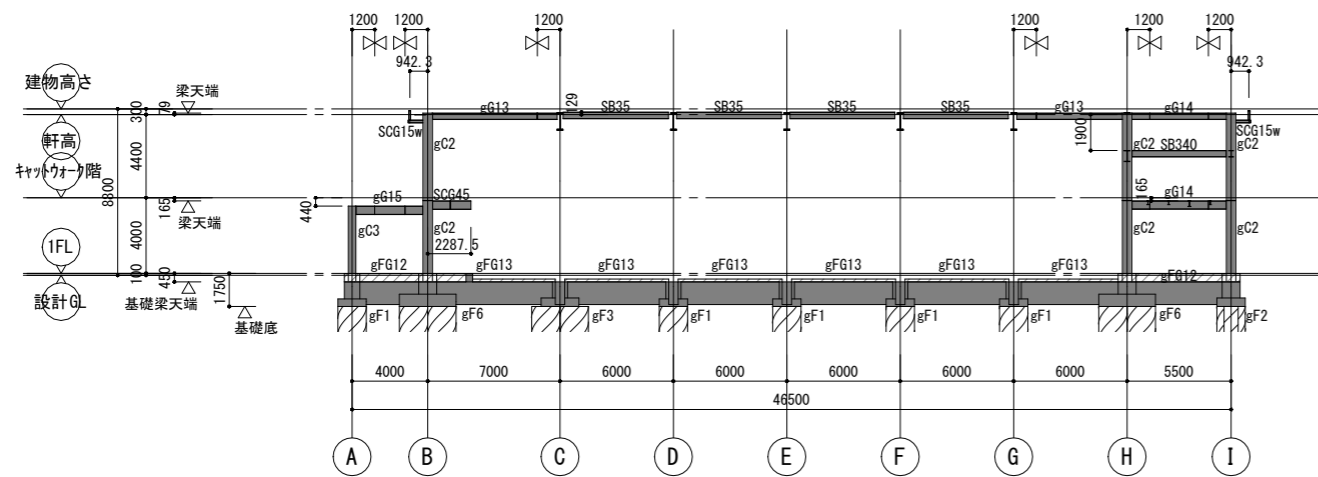
2通軸組図



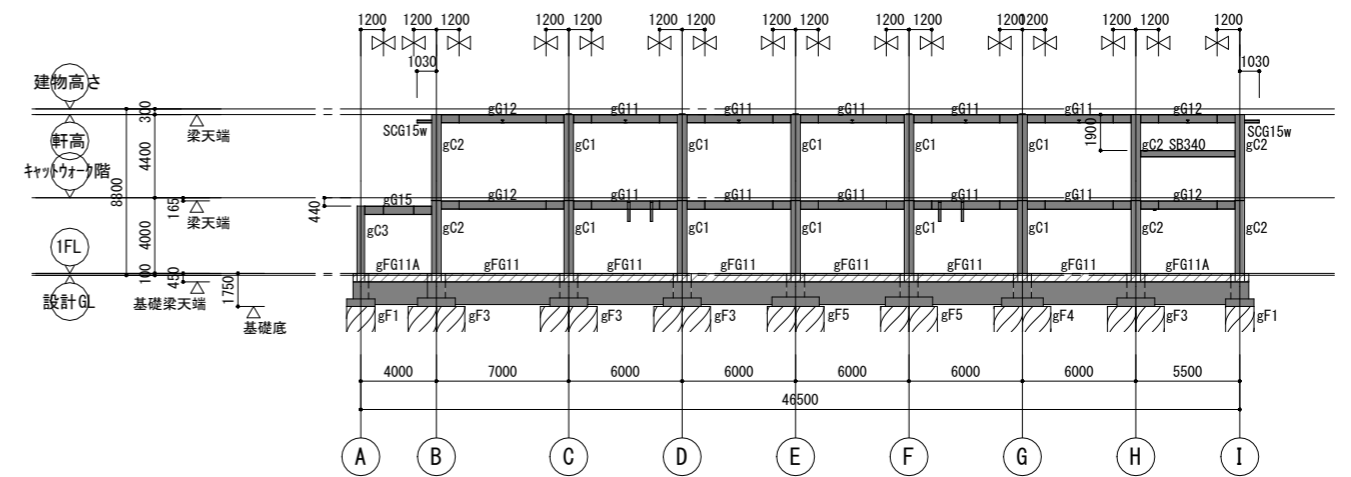
3通軸組図



4通軸組図

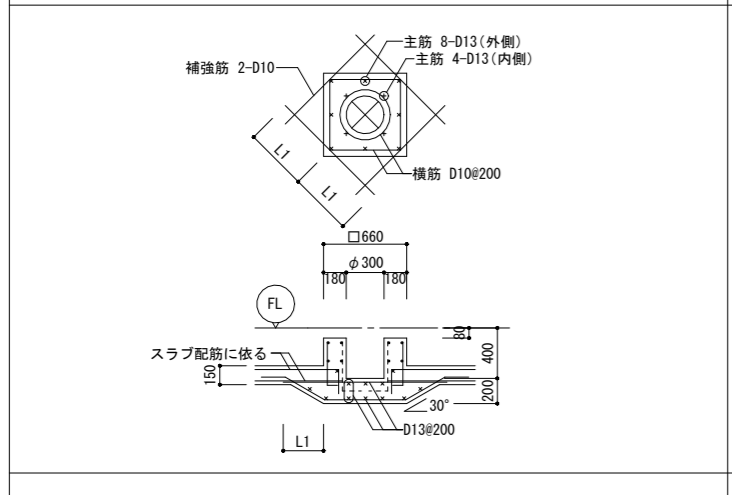
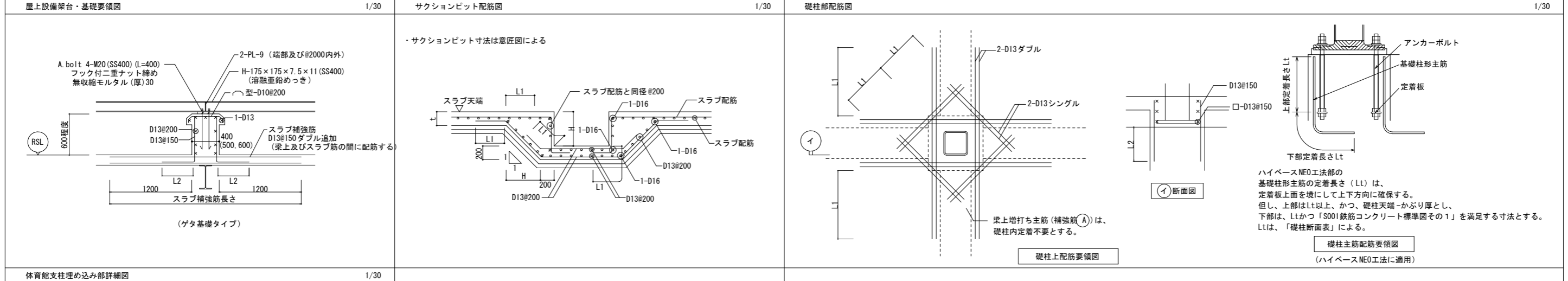


5通軸組図



6通軸組図

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3	一級建築士 No. 248486	一級建築士 No. 334956	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事 (第3工区)	図面番号 S207
		一級建築士 No. 272847 石井 康彦	構造設計一級建築士 No. 4009 木下 隆嗣	設備設計一級建築士 No. 4756 工藤 征志	図面名称 【体育館】軸組図 その3 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	



--	--	--	--

鉄骨柱断面表

階	H×B×t(鋼種)	備考
gC1		
キヤットウ階	□-500×500×16(BCR295)	
1FL	□-500×500×16(BCR295)	柱脚: GB500-8-36(ハイベースNE0工法)
gC2		
キヤットウ階	□-500×500×16(BCR295)	
1FL	□-500×500×19(BCR295)	柱脚: GB500-8-36(ハイベースNE0工法)
gC3		
1FL	□-400×400×16(BCR295)	柱脚: GB400-8-36(ハイベースNE0工法)

○注 記
 特記なき限り、下記による。
 1. 断面寸法において、□-:角形鋼管を示す。
 2. 屋外露出部は、溶融亜鉛めっきとする。

鉄骨大梁断面表

階	断面			鋼材種別
	左端	中央	右端	
gG1				
軒高	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	SN400B
キヤットウ階	H-700×250×12×19	H-700×250×12×19	H-700×250×12×19	SN400B
gG2				
軒高	H-700×300×13×24	H-700×300×13×24	H-700×300×13×24	SN400B
キヤットウ階	H-700×250×12×19	H-700×250×12×19	H-700×250×12×19	SN400B
gG3				
軒高	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	SN400B
キヤットウ階	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	SN400B
gG4				
軒高	H-700×300×13×24	H-700×300×13×24	H-700×300×13×24	SN400B
gG5				
軒高	H-900×300×16×28	H-900×300×16×28	H-900×300×16×28	SN400B
gG6				
キヤットウ階	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	SN400B
gG7				
キヤットウ階	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	SN400B
gG11				
軒高	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	SN400B
キヤットウ階	H-450×200×9×14	H-450×200×9×14	H-450×200×9×14	SN400B
gG12				
軒高	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	SN400B
キヤットウ階	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	SN400B
gG13				
軒高	H-340×250×9×14	H-340×250×9×14	H-340×250×9×14	SN400B
gG14				
軒高	H-340×250×9×14	H-340×250×9×14	H-340×250×9×14	SN400B
キヤットウ階	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	H-440×300×11×18	SN400B
gG15				
キヤットウ階	H-450×200×9×14	H-450×200×9×14	H-450×200×9×14	SN400B
gG16				
キヤットウ階	H-450×200×9×14	H-450×200×9×14	H-450×200×9×14	SN400B

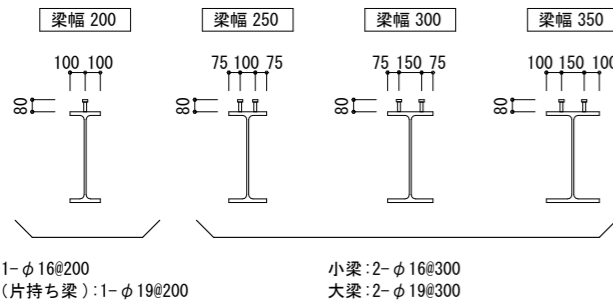
鉄骨片持梁断面表

階	断面			鋼材種別
	左端	右端		
SCG14				
軒高	H-148×100×6×9	H-148×100×6×9		SS400
SCG15w				
軒高	H-150×150×7×10	H-150×150×7×10		SS400
キヤットウ階	H-150×150×7×10	H-150×150×7×10		SS400
SCG45				
キヤットウ階	H-450×200×9×14	H-450×200×9×14		SN400B

○注 記
 特記なき限り、下記による。
 1. Hは外法一定H形鋼、及び、JIS H形鋼を示す。
 2. 屋外露出部は、溶融亜鉛めっきとする。

梁上スタッド要領

- ・スタッドジベル高さは、原則 H=80mmとする。
- ・鉄骨天端とデッキ下端レベルが異なる場合は S212図による。
- ・梁上スタッドジベルは、添板上は不要とする。ただし、必要本数を両側へ振り分けること。
- ・梁上スタッドジベルは、スラブの取付かない範囲は不要とする。



鉄骨二次部材断面表

符号	断面	鋼材種別	仕口(ピン接合)	備考
SB10	H-100×100×6×8	SS400		
SB14	H-148×100×6×9	SS400		
SB15	H-150×75×5×7	SS400		
SB15w	H-150×150×7×10	SS400		
SB20	H-200×100×5.5×8	SS400		
SB25	H-250×125×6×9	SS400		
SB30	H-300×150×6.5×9	SS400		
SB35	H-350×175×7×11	SS400		
SB194	H-194×150×6×9	SS400		
SB340	H-340×250×9×14	SS400		
SB396	H-396×199×7×11	SS400		
SB588	H-588×300×12×20	SS400		
gsb1	[-100×50×7.5×8	SS400	GPL-9, 2-M16	横使い
gsb2	[-150×75×6.5×10	SS400	GPL-9, 2-M16	

符号	断面	鋼材種別	仕口(ピン接合)	備考
SCB15w	H-150×150×7×10	SS400		

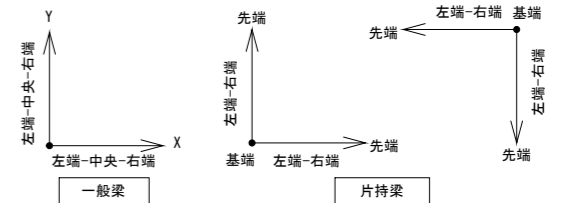
ブレース

符号	断面	鋼材種別	仕口(ピン接合)	備考
ghV1	L-90×90×7×7	SS400	5-M20, GPL-9	
ghV2	L-75×75×9×9	SS400	5-M16, GPL-9	
ghV3	φ-16(ターンバックル付き)	SS400	1-M20, GPL-9	

間柱

符号	断面	鋼材種別	仕口(ピン接合)	備考
sp10w	H-100x100x6x8	SS400		
sp12w	H-125x125x6.5x9	SS400		
sp15w	H-150x150x7x10	SS400		

○注 記
 特記なき限り、下記による。
 1. 添え板およびガセットプレートは主材と同材質とする。
 2. 特記が無い場合、ボルトはトルシア形高力ボルト S10Tとする。
 3. 仕口は「S211 鉄骨部材接合要領図」鉄骨梁継手表による。



鉄骨梁継手・仕口表 (S10T, F10T に適用)																			
断面	材質	ボルト径	剛接合											ピン接合					
			フランジ					ウェブ						ボルト		ガセットプレート			
			ボルト		添板			ボルト		添板				mW	nW	Pc	gt	gBw	
nF	mF	stf1	stf2	sLf	mW	nW	Pc	stw	sBw	sLw									
H-100x100x6x8	400N級	M16	2	2	16	0	290	1	2	60	9	50	350	M16	1	2	60	9	80
H-125x125x6.5x9	400N級	M20	3	2	12	0	410	1	2	60	6	80	350	M20	1	2	60	9	80
H-148x100x6x9	400N級	M16	2	2	16	0	290	1	2	60	6	80	290	M20	1	2	60	9	100
H-150x150x7x10	400N級	M20	2	2	9	9	290	1	2	60	9	80	290	M20	1	2	60	9	100
H-175x175x7.5x11	400N級	M20	2	2	9	9	290	1	2	60	9	80	290	M20	1	2	60	9	100
H-194x150x6x9	400N級	M20	2	2	9	12	290	2	1	60	6	140	170	M20	2	1	60	9	140
H-200x100x5.5x8	400N級	M16	2	2	16	0	290	2	1	60	6	140	170	M20	2	1	60	9	140
H-200x200x8x12	400N級	M20	2	2	9	9	290	2	1	60	6	140	230	M20	2	1	60	9	140
H-244x175x7x11	400N級	M20	2	2	9	9	290	2	1	60	9	140	170	M20	2	1	90	9	170
H-250x125x6x9	400N級	M16	2	2	9	12	290	2	2	60	6	140	290	M20	2	1	90	9	170
H-294x200x8x12	400N級	M20	3	2	9	9	410	3	1	60	9	200	170	M20	3	1	60	9	200
H-300x150x6.5x9	400N級	M20	2	2	9	9	290	2	1	120	6	200	170	M20	3	1	60	9	200
H-340x250x9x14	400N級	M22	3	2	12	12	410	3	1	60	9	200	170	M22	3	1	60	12	200
H-350x175x7x11	400N級	M20	2	2	9	9	290	3	1	90	6	260	170	M20	4	1	60	9	260
H-390x300x10x16	400N級	M22	3	2	12	12	350	3	1	90	9	260	170	M22	4	1	60	16	260
H-396x199x7x11	400N級	M20	3	2	9	9	410	4	1	60	9	260	170	M20	4	1	60	12	260
H-400x200x8x13	400N級	M20	3	2	9	9	410	4	1	60	9	260	170	M20	4	1	60	12	260
H-440x300x11x18	400N級	M22	4	2	12	12	440	5	1	60	9	320	170	M22	5	1	60	12	320
H-450x200x9x14	400N級	M22	3	2	12	12	410	4	1	60	12	260	170	M22	5	1	60	12	320
H-488x300x11x18	400N級	M22	4	2	12	12	440	5	1	60	12	320	170	M22	6	1	60	12	380
H-500x200x10x16	400N級	M22	3	2	12	12	410	4	1	90	9	350	170	M22	6	1	60	12	380
H-588x300x12x20	400N級	M22	4	2	12	16	440	7	1	60	9	440	170	M22	7	1	60	12	440
H-600x200x11x17	400N級	M22	3	2	12	12	410	7	1	60	9	440	170	M22	7	1	60	12	440
H-700x300x13x24	400N級	M22	5	2	19	19	530	9	1	60	9	560	170	M22	9	1	60	16	560
H-800x300x14x26	400N級	M22	5	2	19	19	530	10	1	60	12	620	170	M22	10	1	60	16	620
H-900x300x16x28	400N級	M22	6	2	19	22	620	12	1	60	12	740	170	M22	12	1	60	16	740

鉄骨大梁継手・仕口表 (S10T, F10T に適用)																	
断面	材質	ボルト径	剛接合											ピン接合			
			フランジ					ウェブ						ウェブ		ガセットプレート	
			ボルト		添板			ボルト		添板				mW	nW	gt	gBw
nF	mF	stf1	stf2	sLf	mW	nW	pc	stw	sBw	sLw							
H-700x250x12x19	SN400B	M22	4	2	12	16	530	8	1	60	12	500	170	8	1	12	500

鉄骨梁継手要領図

<フランジ継手>

フランジ現場溶接の場合

- ブレースが梁端部に取付く梁の継手は原則フランジ溶接とする。
- 運搬上支障がない場合は、ボルト接合としてよい。(柱心からブラケットの長さが一方でも概ね1500を超える場合)

ウェブ継手は上表による

<ウェブ継手>

B に対する g1, g2, 最大軸径は、下表とする。

B=sBf1	sBf2	g1	g2	最大軸径
100 *2	-	56		16
125	50	75		16
150	60	90		22
175	70	105		22
200	80	120		24
250	100	150		24
300 *1	110	150	40	24
350	140	140	70	24
400	170	140	90	24

*1 B=300は千鳥打ちとする。
*2 印の欄の g および最大軸径の値は、強度上支障がないとき、最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

小梁仕口要領図

小梁仕口差部要領図

レベル差が生じる場合の納まりを示し、「小梁仕口要領図」を基本とし、下図と組合せる。

(h ≤ 50の場合) (h > 50の場合)

スチフナPLは、ガセットプレートと同厚以上とする。
p, e は、右表とする。

	M16	M20	M22
p	60	60	60
e	40	40	40

小梁・片持梁スタッドジベル取付要領図

間柱ピン接合要領図 (鋼管以外)

ブレース接合要領図

スチフナPLは、ガセットプレートと同厚以上とする。
p, e は、特記が無い場合下表とする。

	M16	M20	M22
p1	60	60	60
p2	60	60	60
e1	40	40 (50)	40 (55)
e2	40	40	40

間柱軸方向ボルトが3本以上並ばない場合は、()内数値を適用
e3: クリアランスのみの場合: 10
すみ肉溶接の場合: 15~20

※他に図示がある場合、当該図による。

※ P, e は、下表とする。

	M16	M20	M22
P	60	60	60
e	40	50	50

大梁横補剛要領図

<① ボルトタイプ>

<② 方杖タイプ>

1. 小梁の仕口仕様 (ボルト、GPL) は、断面表による。ただし、大梁側に適用し、小梁側は符号の添え字 b が無い場合と同じとする。
2. 左図の h2 > 300、又は、大梁の天端レベルと小梁の天端レベル差が 100 を超える場合 (小梁側が高い場合) は、監理者に確認の上、「方杖タイプ」に置換える。

1. 方杖の適用箇所は床伏図による。
2. h2 > 500 の場合、方杖角度は 1:1 にする。
3. 伏図で SB*b に方杖マークの記載がある場合の仕口仕様は、方杖が取付く側は、添え字 b が無い場合の仕様を適用する。

符号	DS1				
断面					
デッキプレート	型枠用デッキプレート				
備考					

○注記
1. 型枠用デッキプレート板厚は、「S007 型枠用デッキプレート標準図」参照とする。

デッキプレート受材

タイプA

タイプB

受材 (タイプA)

- ・ $h \leq 50$: L-75x75x6
- ・ $50 < h \leq 70$: L-90x90x6
- ・ $70 < h \leq 100$: [-125x65x6x8]
- ・ $100 < h \leq 130$: [-150x75x6.5x10]
- ・ $130 < h \leq 150$: [-180x75x7x10.5]
- ・ $150 < h \leq 180$: [-200x80x7.5x11]
- ・ $180 < h \leq 200$: [-250x90x9x13]
- ・ $200 < h$ (片側) : PL-9
- ・ $200 < h$ (両側) : フランジ PL12, ヌブ PL-9

仕口部デッキプレート受け要領図

フランジ天端揃え
PL-9x50
長さはデッキ割付寸法による

デッキプレート端部補足材

デッキ床の端部が梁フランジ端部より外側にくる場合は、下記要領でコンクリート止め部材、及び補強部材を設けること。

LD ≤ 300 300 < LD ≤ 600

デッキプレート スラブ端部 配筋要領図

配力筋：デッキスラブ側と同じとする。

(下記の配筋かつ、接続するスラブ鉄筋量のうち多い方)
LD ≤ 300 D10 @スラブ上端筋と同ピッチ
300 < LD ≤ 600 D13 @スラブ上端筋と同ピッチ
下端筋について、デッキスラブがトラス筋付きデッキスラブの場合、下端筋は上端筋と同じとする。(主筋、配力筋とも同じ)

デッキ段差部配筋要領

h ≤ 130の場合 h > 130の場合 h ≥ 150の場合

Ls: 5hかつ200以上
ただし、5hが200を超える場合は200以上

デッキスラブ段差部配筋図

シア鉄筋要領

等厚スラブ (シア鉄筋配筋不可の場合)

デッキスラブ ひび割れ補強筋要領図

柱廻り補強筋 梁上ひび割れ防止筋

- ・ 梁の両側にデッキが付く場合に適用する。
- ・ デッキ敷き方向に関わらず適用する。
- ・ 大梁上部に適用する。

< 型枠用デッキ、トラス筋付きデッキ用 >

共通事項

- 溶接記号は、突合せ溶接か、すみ肉溶接かの区別を示し、開先形状は、「溶接標準図」による。
- 特記がない場合、鋼材材質は下記とする。
大梁：SN400B
柱：BCR295
- ダイヤフラムは通しダイヤフラム、及び、内ダイヤフラムとし、本図に準じる。
原則として、梁フランジが取合う場合は通しダイヤフラムとする。
仕口パネル部の強度が梁の強度より上位、かつ、仕口部の最上部、最下部のダイヤフラム以外の中段部のダイヤフラムのうち、向かい合う辺の1方向のみにフランジが取付く場合は、内ダイヤフラムとしてよい。
- 梁フランジ完全溶け込み溶接部はノンスラップ形式とする。
- △は、柱心を示す。
- ▶は、ウェブ心を示す。
- 印は、現場継手位置を示し、寸法は軸組図による。
- ※寸法は、伏図および軸組図による。

仕口部仕様詳細
(各図に記載がある場合は記載内容による)

A ・通しダイヤフラムの材質
SN490C (取り付く梁の材質がSN400、SS400のみ場合、SN400Cとする。)
(t > 40の場合、TMCP325C (大臣認定品) とする。)

・板厚は、集合する梁フランジの最大板厚の2サイズアップかつ、柱断面最大板厚の1サイズダウン以上、かつ16mm以上とする。
梁フランジは、通しダイヤフラムの厚み内で溶接すること。

B ・内ダイヤフラムの材質は下記とする。
SN490B (取り付く梁の強度に関わらず)

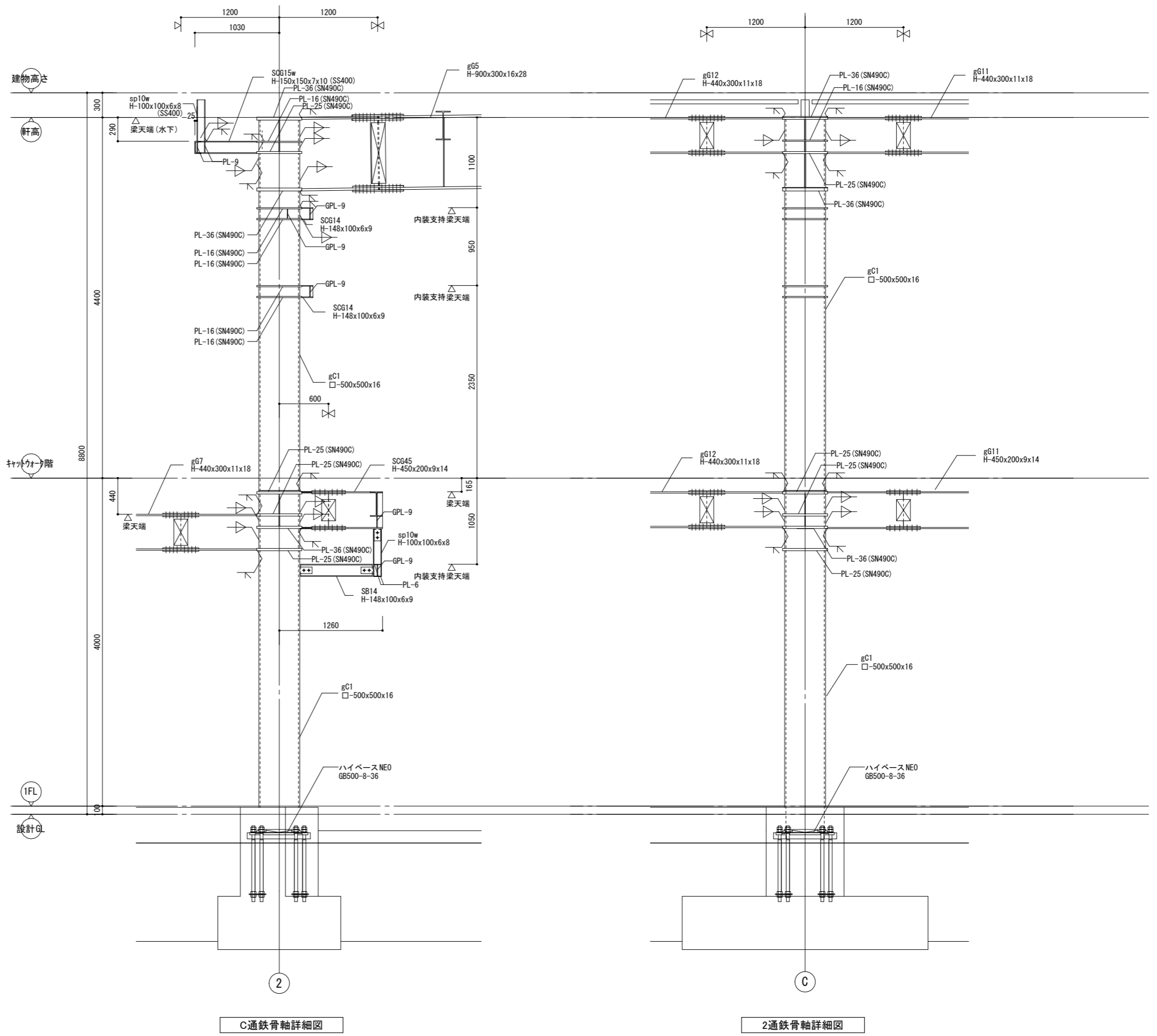
・厚みは梁フランジ厚の1サイズアップを標準とする。

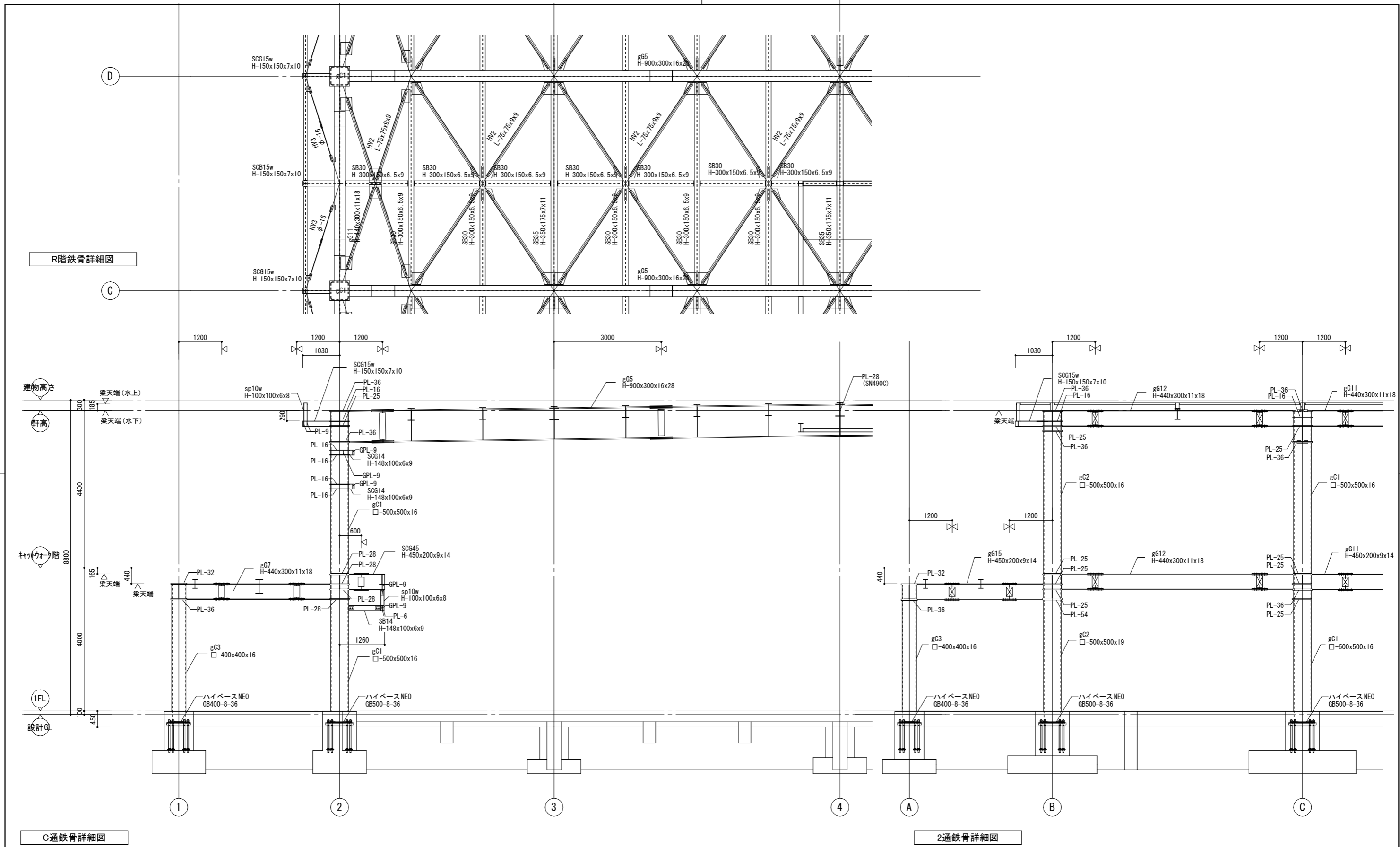
C ・仕口部パネルの材質、断面
BCR295のみに取付く場合：BCR295
・パネル部の材質がBCR295に取付くSN490Bの梁ウェブのすみ肉溶接サイズは、S006図の1.2倍以上とすること。

ダイヤフラム板厚表

T	ダイヤフラム板厚	T	ダイヤフラム板厚	T	ダイヤフラム板厚
9	16	17	25	25	32
11	19	18	25	26	32
12	19	19	25	28	36
13	19	20	28	32	40
14	22	21	28	36	45
15	22	22	28	40	50
16	22	24	32		

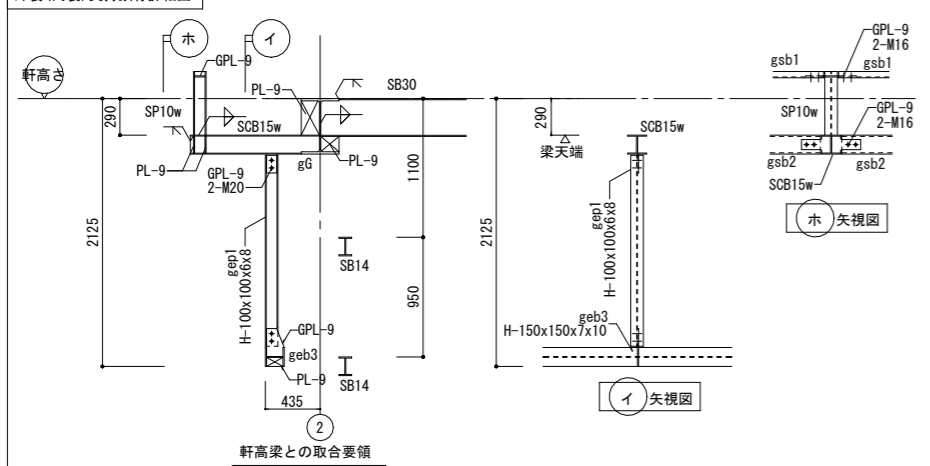
注) Tは取り付く大梁フランジのうち最大の厚みとする。



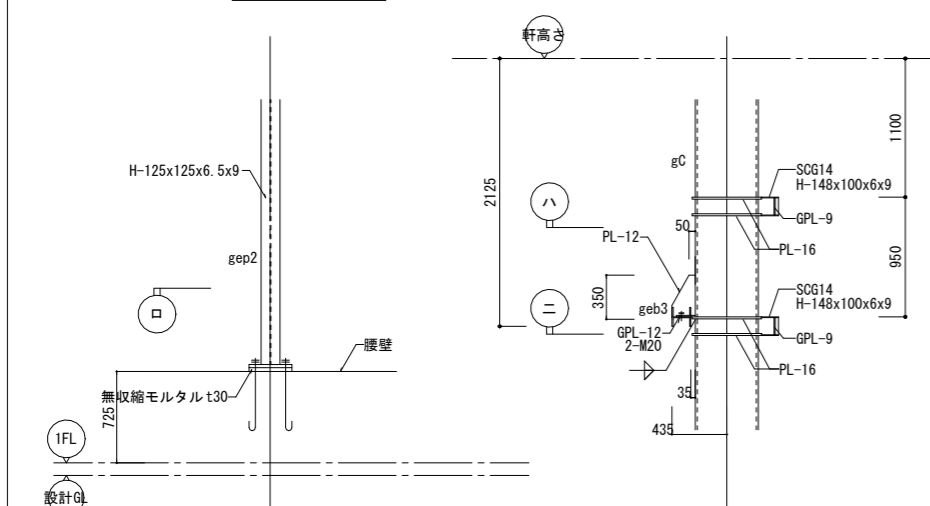


公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3	一級建築士 No.248486	一級建築士 No.334956	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第3工区) 図面名称 【体育館】鉄骨詳細図 その1 縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 S214
			石井 康彦	構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志		

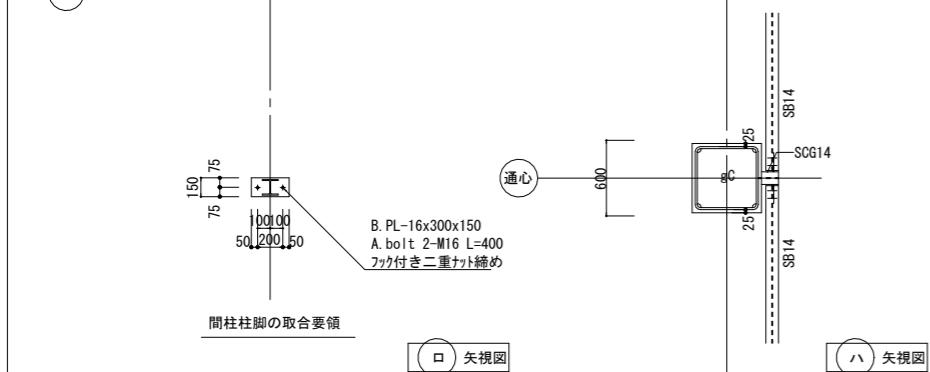
外装(内装)支持鉄骨詳細図



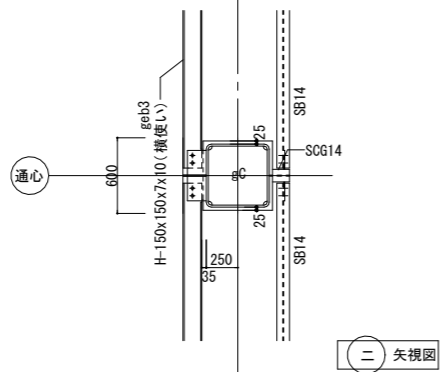
軒高梁との取合要領



間柱柱脚の取合要領

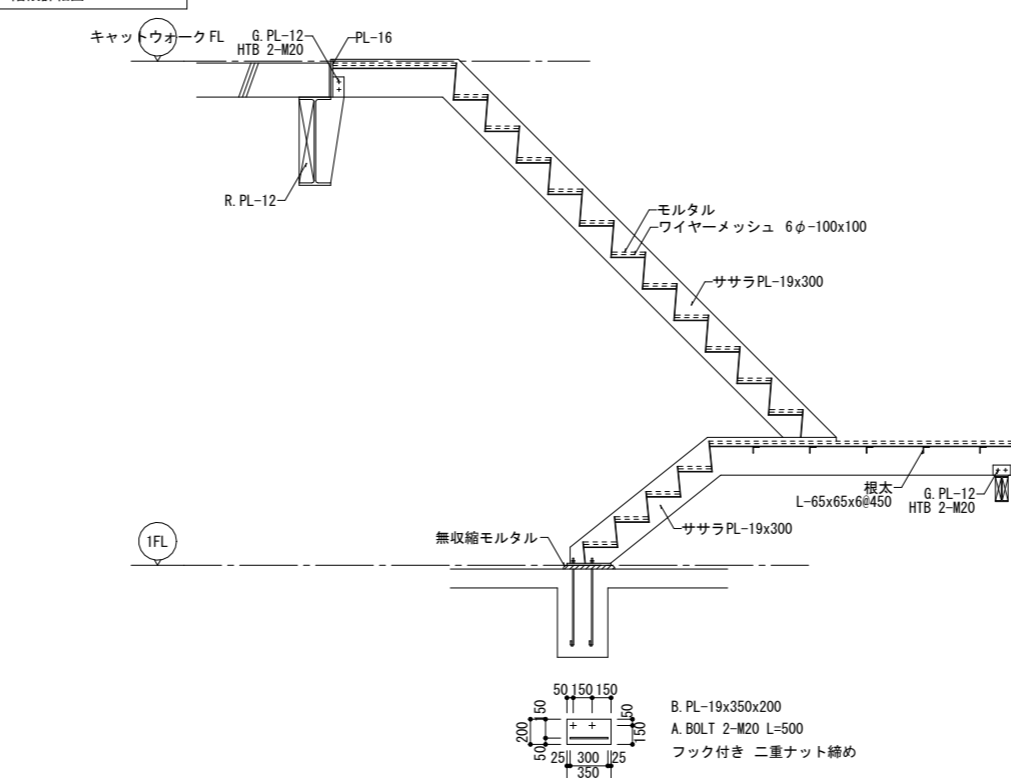


矢視図



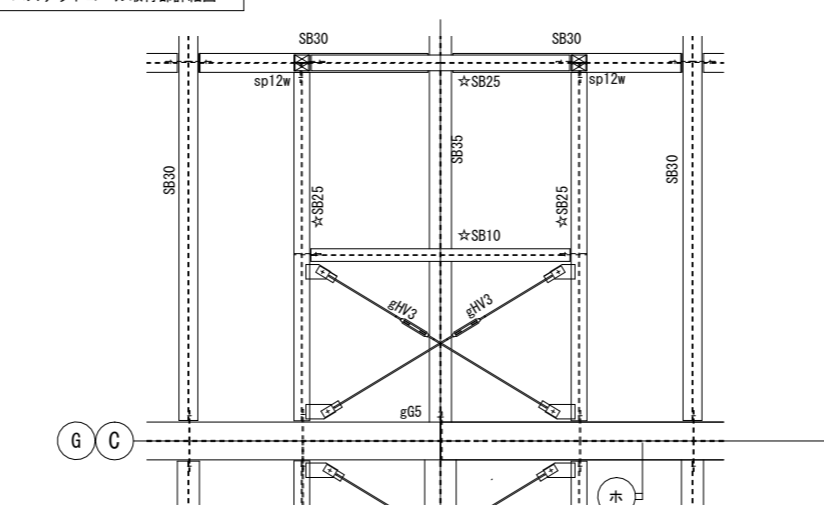
矢視図

階段詳細図

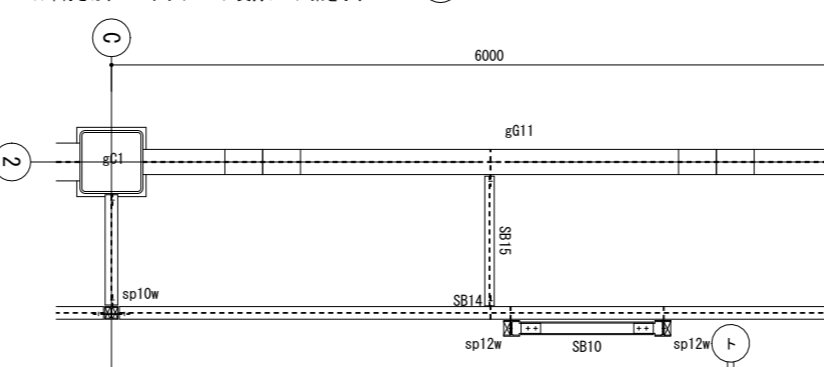


B. PL-19x350x200
A. BOLT 2-M20 L=500
フック付き 二重ナット締め

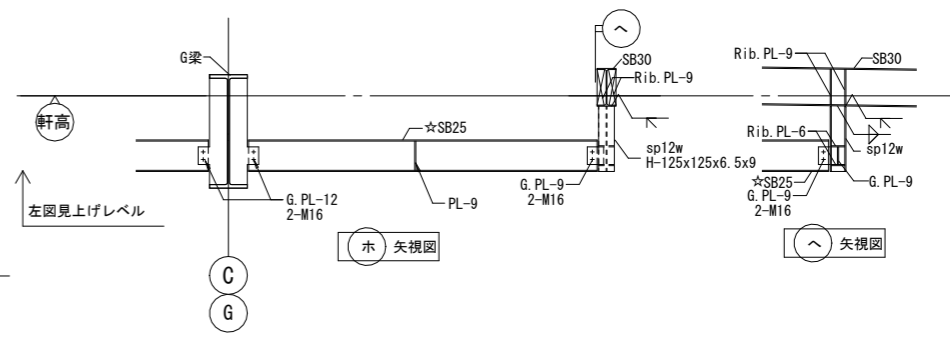
バスケットゴール取付部詳細図



天井レベル取付要領
★印付きは、バスケットゴール支持レベル梁を示す

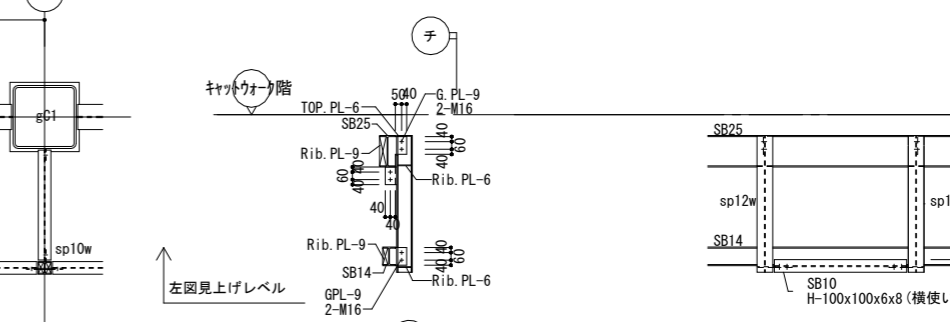


キャットウォークレベル取付要領



矢視図

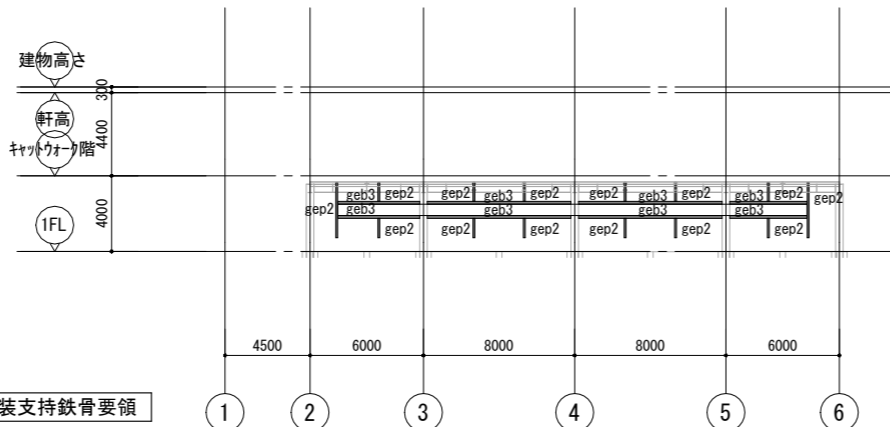
矢視図



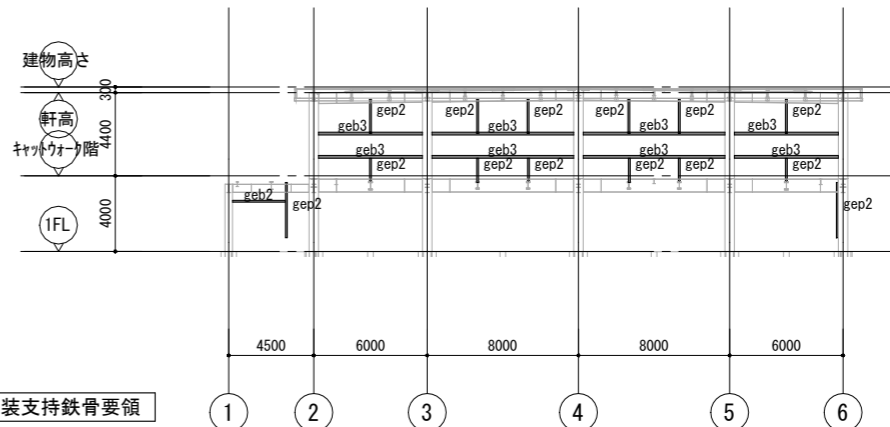
矢視図

矢視図

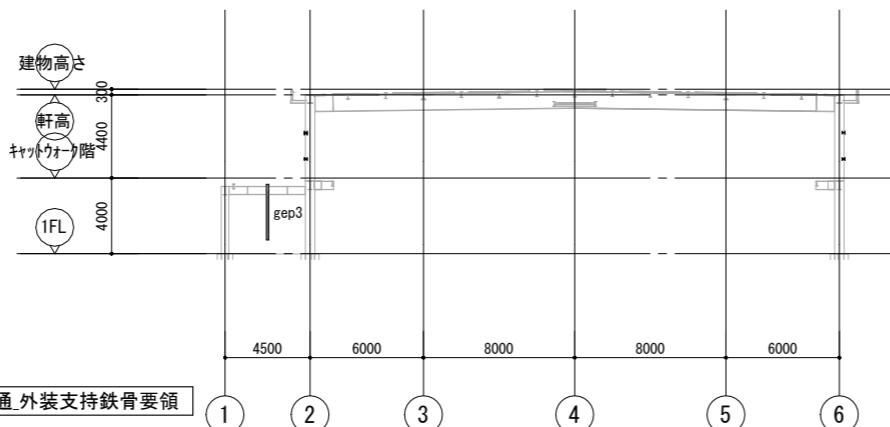
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3 一級建築士 No.272847 石井 康彦	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第3工区) 図面名称 【体育館】鉄骨詳細図 その2 縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60	図面番号 S215
-----------------------------------	--	---	--	---	---	---	--------------



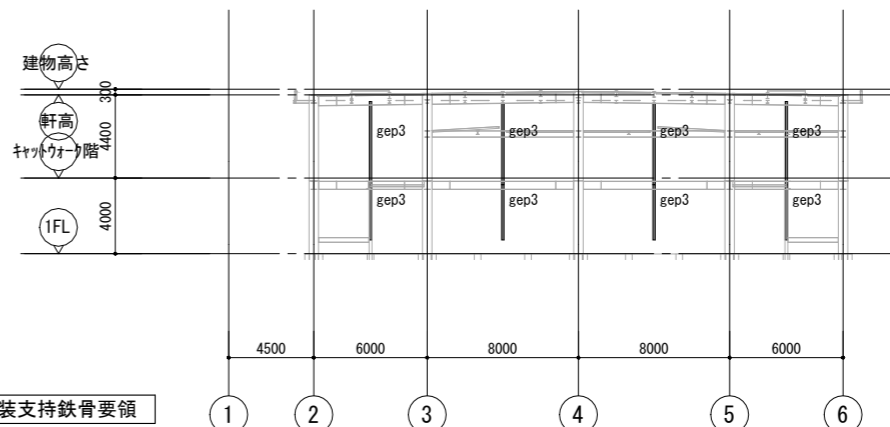
A通 外装支持鉄骨要領



B通 外装支持鉄骨要領



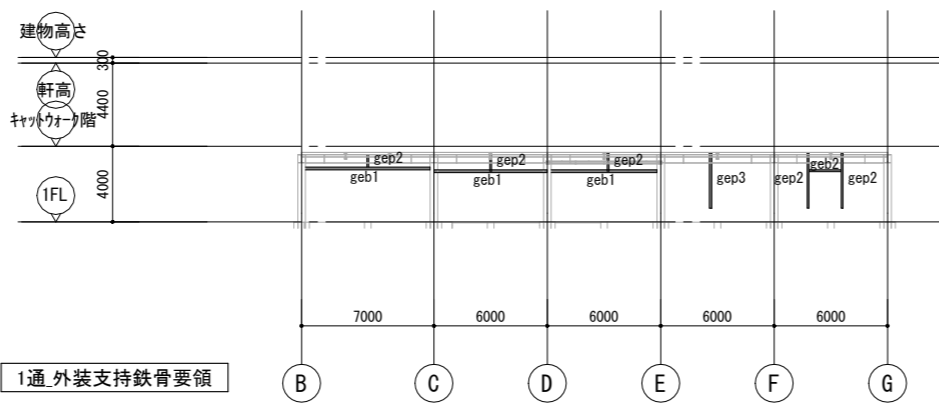
G通 外装支持鉄骨要領



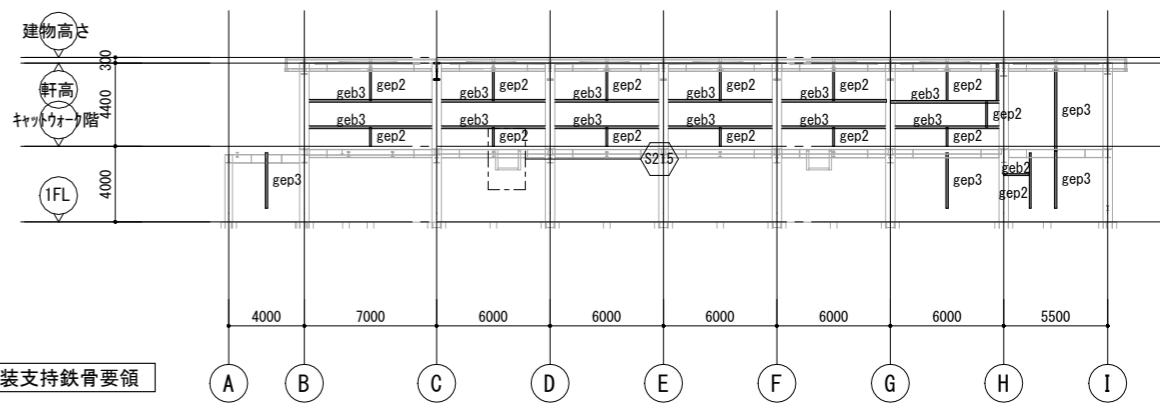
I通 外装支持鉄骨要領

符号	断面	鋼材種別	仕口 (ピン接合)
gep2	H-100x100x6x8	SS400	2-M16
gep3	H-125x125x6.5x9	SS400	2-M16

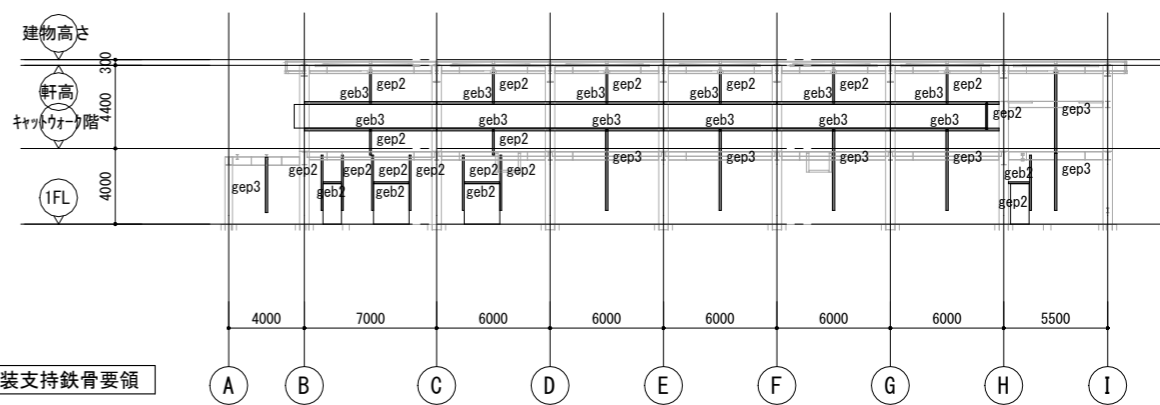
符号	断面	鋼材種別	仕口 (ピン接合)
geb1	H-194x150x6x9	SS400	2-M20
geb2	H-100x100x6x8	SS400	2-M16
geb3	H-150x150x7x10	SS400	2-M20



1通 外装支持鉄骨要領

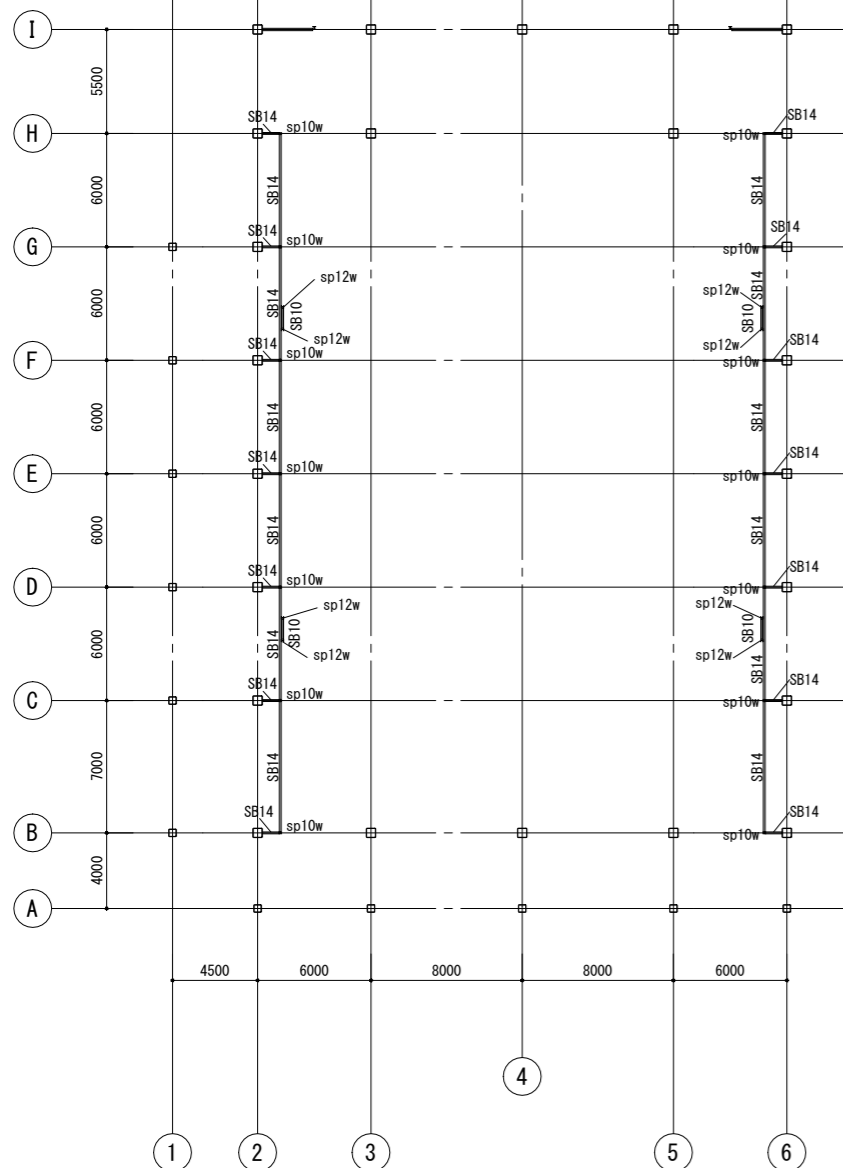


2通 外装支持鉄骨要領



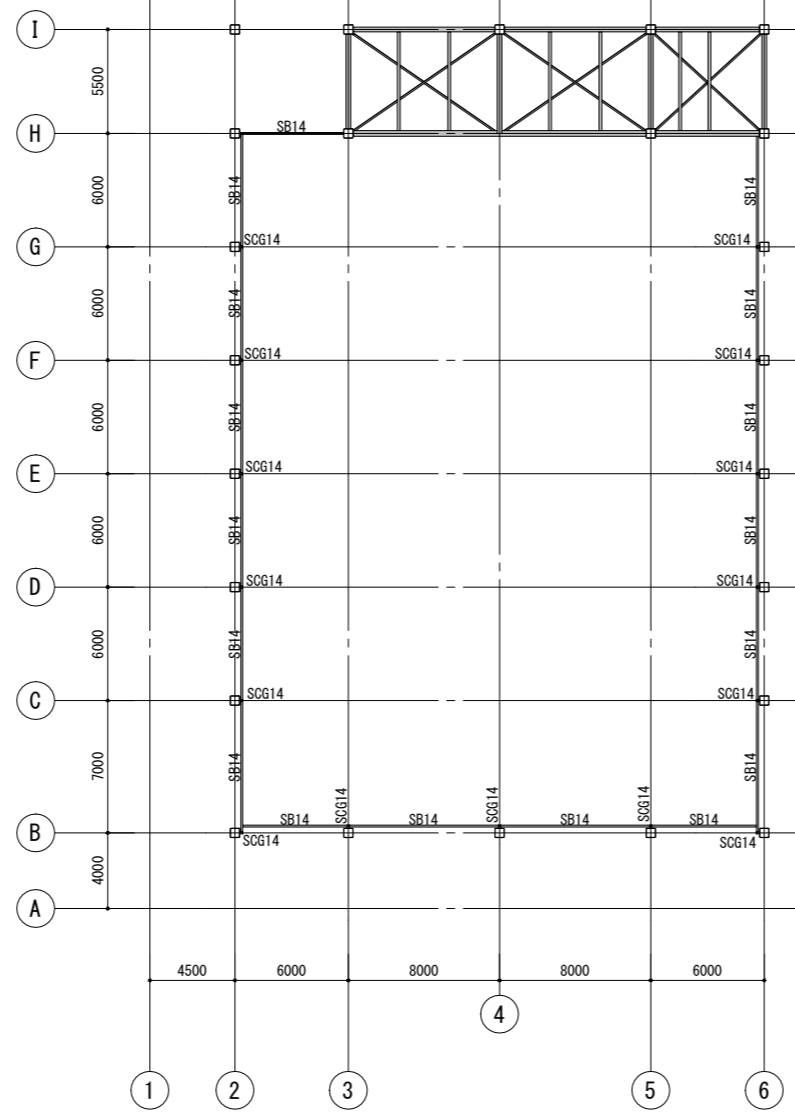
6通 外装支持鉄骨要領

○注 記
 1. geb1, 2, 3 (耐風梁) は横使いとする。
 2. 特記のない場合、仕口は「S211 鉄骨部材接合要領図」鉄骨梁継手表による。



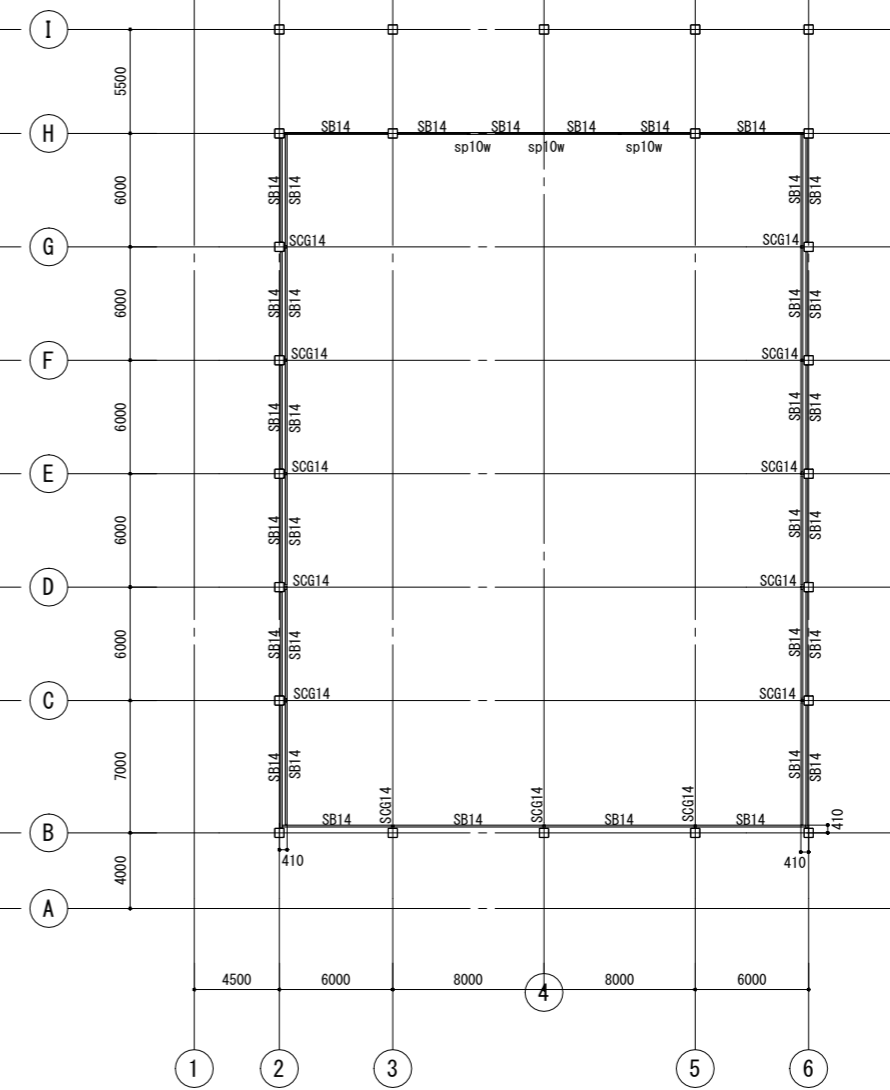
キヤットウオーク階-1050

特記なき限り、下記による。
 ・梁天端レベルはキヤットウオークレベル-1050とする。



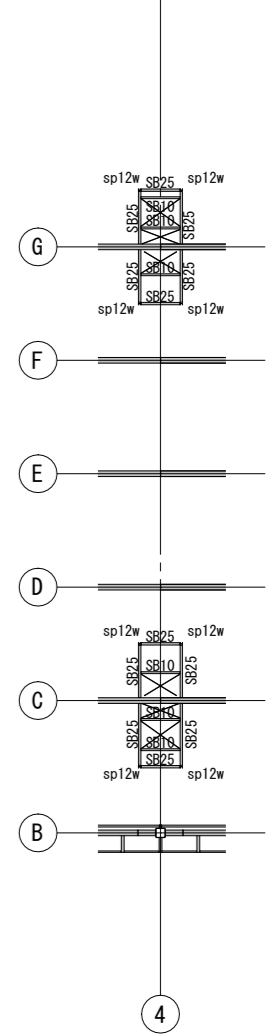
軒高-2050

特記なき限り、下記による。
 ・梁天端レベルはキヤットウオークレベル-2050とする。



軒高-1150

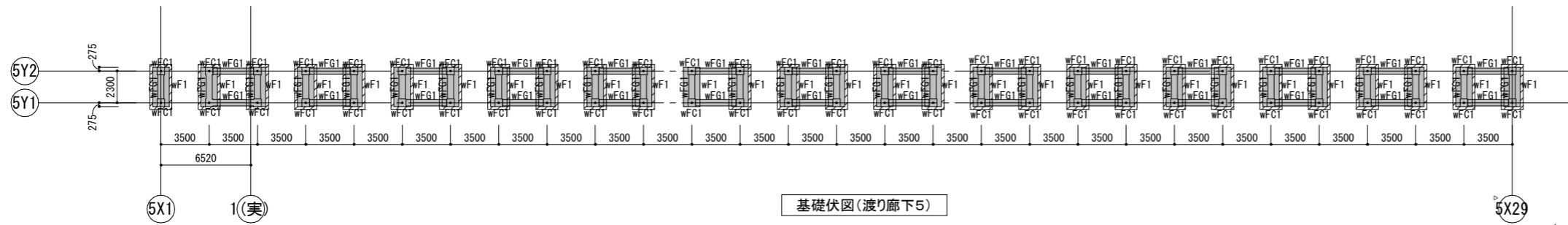
特記なき限り、下記による。
 ・梁天端レベルはイレベル-1150とする。



天井バスケットゴール支持材

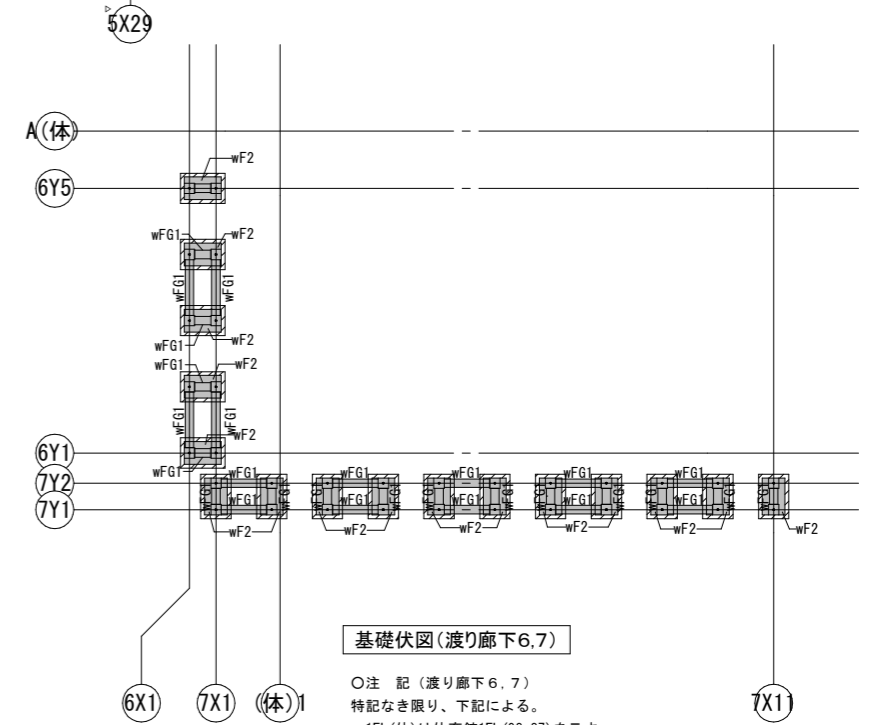
特記なき限り、下記による。
 ・梁天端レベルは軒高-350とする。

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第3工区) 図面名称 【体育館】内装支持鉄骨要領図	図面番号 S217
		石井 康彦	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400			



基礎伏図(渡り廊下5)

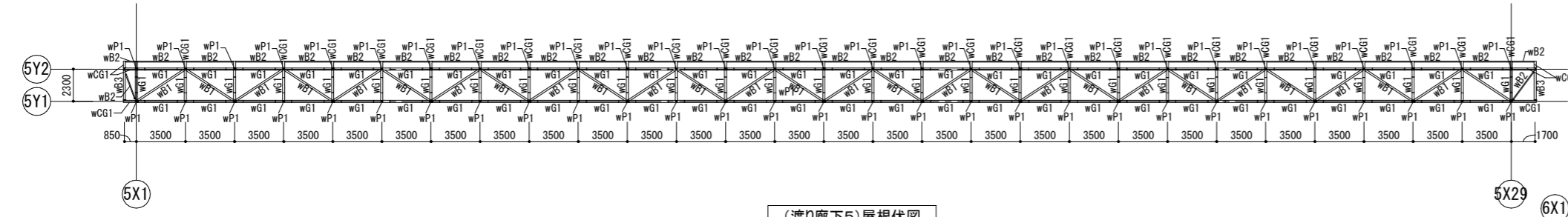
○注記(渡り廊下5)
 特記なき限り、下記による。
 ・1FL(実)は実習工場・実験室棟1FL(98.92)を示す。
 ・基礎梁天端レベルは1FL(実)-350、BPL下端は1FL(実)-320とする。



基礎伏図(渡り廊下6,7)

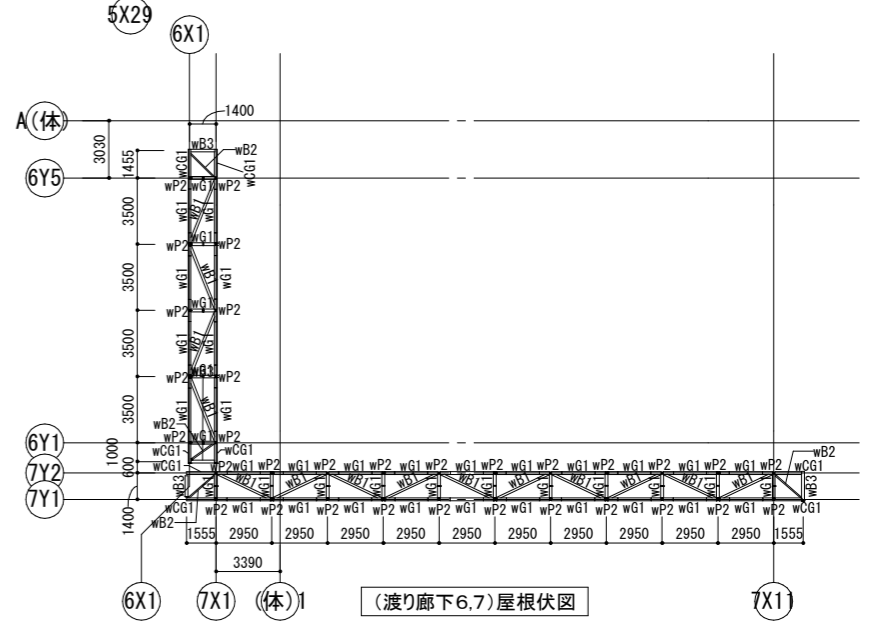
○注記(渡り廊下6,7)
 特記なき限り、下記による。
 ・1FL(体)は体育館1FL(98.87)を示す。
 ・基礎梁天端レベルは1FL(体)-350、BPL下端は1FL(体)-320とする。

○注記(基礎伏図共通)
 特記なき限り、下記による。
 ・通芯=基礎芯=柱芯=梁芯とする。
 ・基礎底レベルは軸組図による。
 ・は地盤改良範囲を示し、長期許容支持力度は60kN/m²とする。
 地盤改良の仕様、品質管理等は、「渡り廊下構造図その3」による。



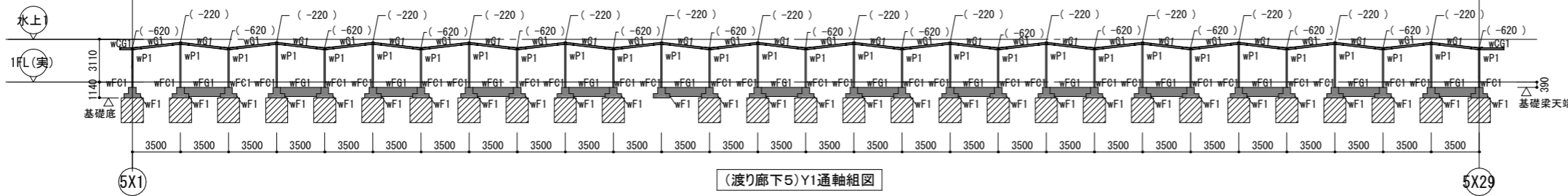
(渡り廊下5)屋根伏図

○注記(屋根伏図共通)
 特記なき限り、下記による。
 1. 通芯=柱芯=梁芯(ウェブ芯)とする。
 2. 鉄骨梁端部の接合部は原則として、
 大梁、片持梁(wG, wCG符号)は剛接合、小梁(wB符号)はピン接合とし、
 図中の表記は省略する。
 3. 梁天端レベルは軸組図による。

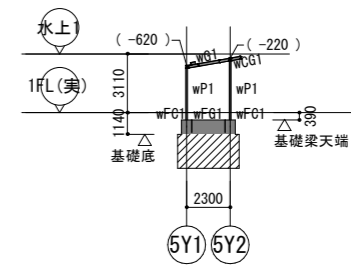


(渡り廊下6,7)屋根伏図

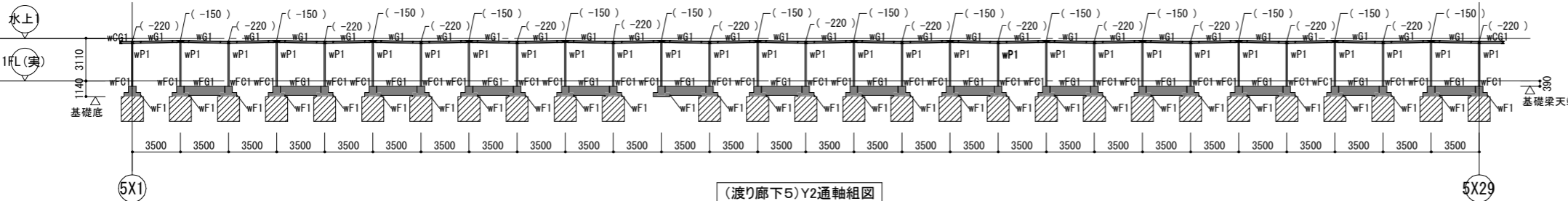
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3 一級建築士 No.2728847 石井 康彦	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第3工区) 図面名称 渡り廊下 構造図その1 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S301
-----------------------------------	---	---	---	---	--	--------------



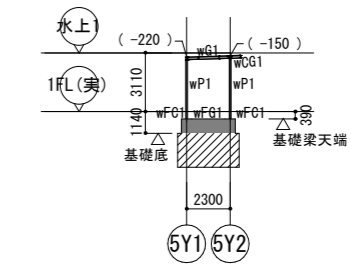
(渡り廊下5)Y1通軸組図



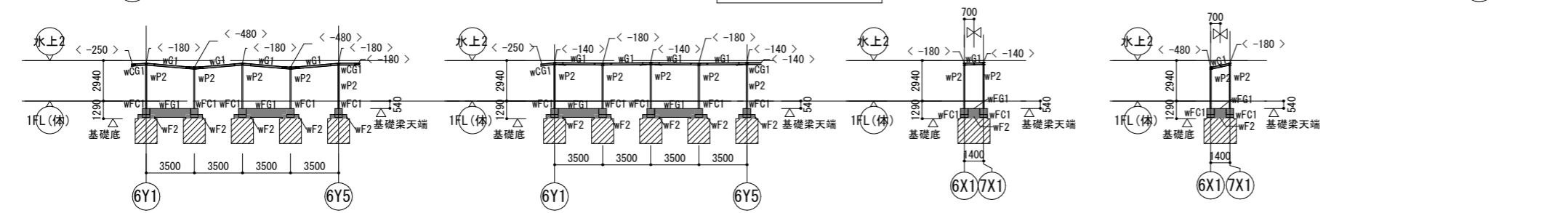
(渡り廊下5)X1通軸組図



(渡り廊下5)Y2通軸組図



(渡り廊下5)X2通軸組図



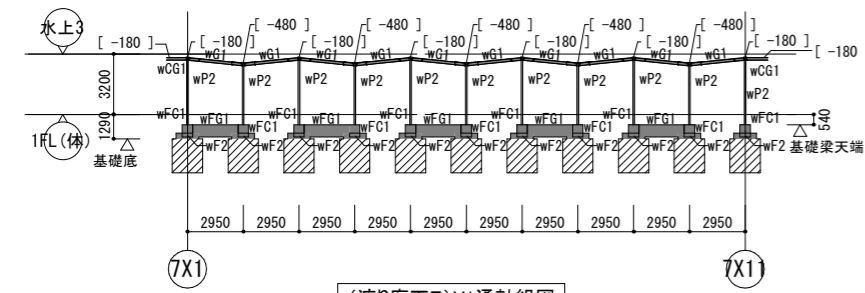
(渡り廊下6)X1通軸組図

(渡り廊下6)X2通軸組図

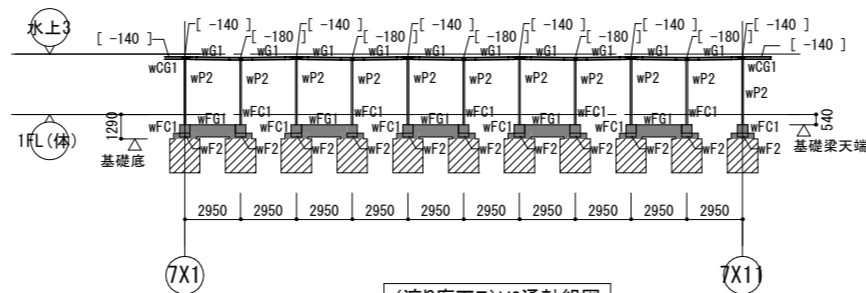
(渡り廊下6)Y1通軸組図

(渡り廊下6)Y2通軸組図

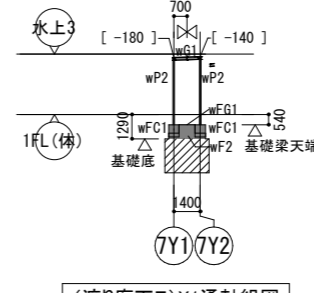
- 注記(軸組図共通事項)
 特記なき限り、下記による。
 ・1FL(実)は実習棟1FL(99.02)、1FL(体)は体育館1FL(98.87)を示す。
 ・大梁、片持梁(wG, wOG符号)の継手位置は通芯から600とする。
 ・片持梁の継手は、長さ1200を超える部材の基礎側に設ける。
 ・△継手位置を示す。
 ・▨は地盤改良(浅層改良)を示し、改良底は1FL-3300とする。
 ・()内数値は水1レベルからの梁天端レベルを示す。
 ・< >内数値は水2レベルからの梁天端レベルを示す。
 ・[]内数値は水3レベルからの梁天端レベルを示す。



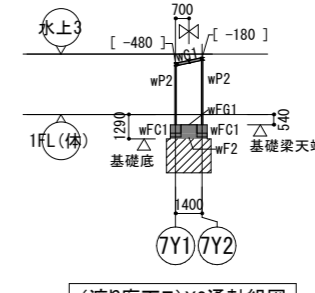
(渡り廊下7)Y1通軸組図



(渡り廊下7)Y2通軸組図



(渡り廊下7)X1通軸組図



(渡り廊下7)X2通軸組図

基礎断面表

符号	厚	幅	主筋	配力筋	はかま筋
wF1	300	1200	D13@200	D13@200	D13@200
wF2	300	1200	D13@200	D13@200	D13@200

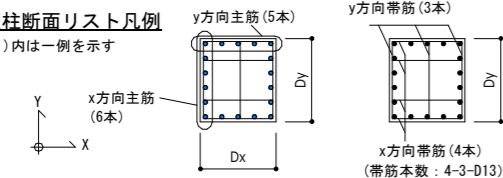
礎柱断面表_注記

特記のない場合は下記による。
 ・帯筋はH形とする。

符号	断面(Dx×Dy)	主筋		帯筋	備考
		径	x方向本数		
wFC1	550×550	D19	5	5	2-2-D10@125

礎柱断面リスト凡例

()内は一例を示す

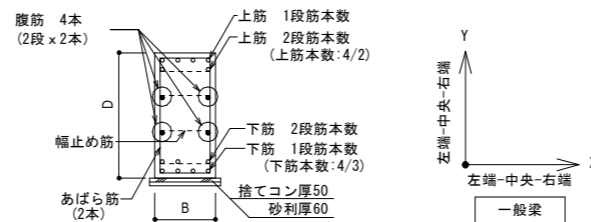


基礎梁断面表

特記のない場合は下記による。
 1. 幅止め筋 D10-▽@1000

符号	断面 B×D	主筋径	上端筋			下端筋			あばら筋	腹筋
			左端	中央	右端	左端	中央	右端		
wFG1	450×650	D19	4/0	4/0	4/0	4/0	4/0	4/0	2-D13@200	2- 2-D10

RC梁断面リスト凡例



鉄骨部材断面表

符号	断面	鋼材種別	備考
wB1	H-125x125x6.5x9	SS400	
wB2	[-125x65x6x8	SS400	
wB3	H-150x150x7x10	SS400	
wCG1	H-150x150x7x10	SS400	
wG1	H-150x150x7x10	SS400	
wP1	○-101.6x8.1	STK400	BPL:25x270x270 AboIt:4-M20
wP2	○-89.1x7.6	STK400	BPL:25x270x270 AboIt:4-M20

公立大学法人 滋賀県立大学
 高専開校準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号
 20240631-3
 一級建築士 No.2728847
 石井 康彦

一級建築士 No.248486
 構造設計一級建築士 No.4009
 木下 隆嗣

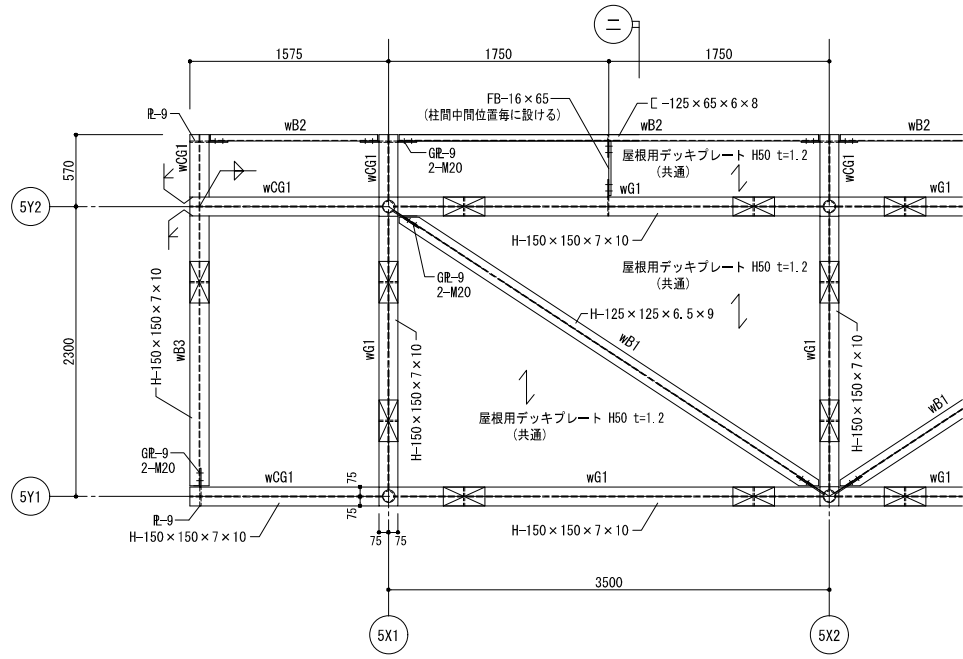
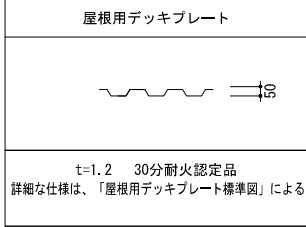
一級建築士 No.334956
 構造設計一級建築士 No.4756
 工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
 新築工事(第3工区)
 図面名称 渡り廊下 構造図その2
 縮尺 A1: 1/200
 A3: 1/400

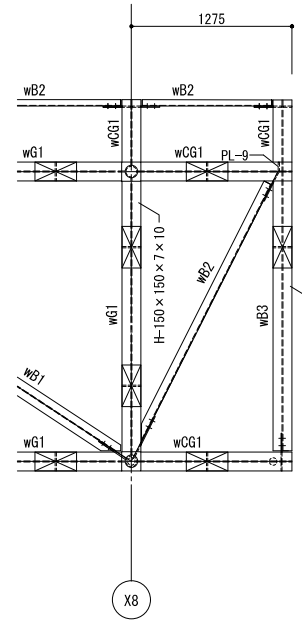
図番番号
 S302

渡り廊下5 鉄骨詳細図

※本図は「渡り廊下5」を示し、「渡り廊下6,7」は本図に準じる。

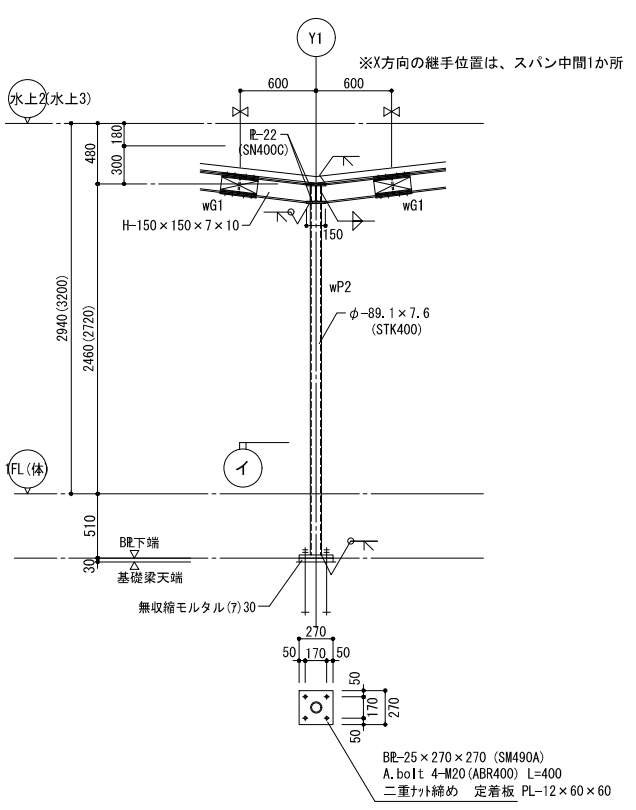


屋根伏図



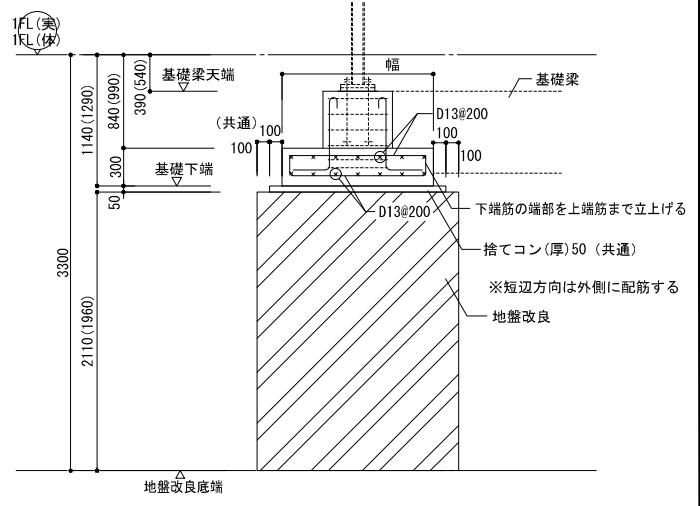
渡り廊下6,7 鉄骨詳細図

() 内は渡り廊下7を示す

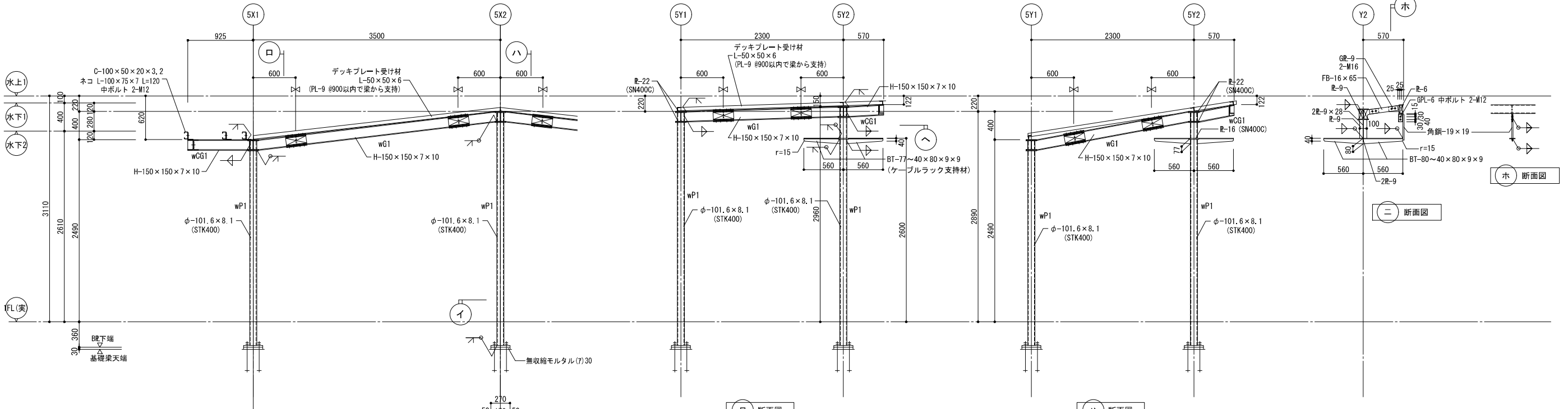


基礎詳細図

() 内数値は渡り廊下6,7を示す



- 地盤改良仕様
- 工法 : セメント系固化剤による浅層混合処理工法
 - 改良目標値 : 長期許容支持力 60kN/m² (Fc=180kN/m²) (平板載荷試験 計3ヶ所 (ゾーン毎に1か所ずつ))
 - 固化剤添加量 : 100kg/m²程度
- ・適用基準 : 「改訂版 建築物のための改良地盤の設計および品質管理指針」。
- ・現場施工に先立ち、原地盤土による室内配合試験を行い固化剤配合量を決定すること。固化剤は六価クロム低溶出型を使用する。
- ・現場施工に先立ち、六価クロム溶出試験を行うこと。(環境庁告示第46号の試験方法1による。)
- ・改良地盤より供試体採取し一軸圧縮試験を行い強度を確認すること。
- ・本工事に先立ち、施工計画書を作成し、監督員の承認を受けること。
- ・アルカリ性を含む水分が場外、雨水側溝等に流出しないように対策を行うこと。
- ・本施工に先立ち、試掘を行い支持地盤の確認を行うこと。
- 渡り廊下5 : 4か所程度
渡り廊下6 : 2か所程度
渡り廊下7 : 2か所程度



継手仕様 (梁: H-150x150)
フランジ 4x4-M20 外: 2PL-9x150x330
内: 4PL-12x60x330
ウェブ 2x2-M20 2PL-6x100x290 (ボルト: F8T)

BE-25x270x270 (SM490A)
A. bolt 4-M20 (ABR400) L=400
二重ナット締め 定着板 PL-12x60x60

- 注記
- 特記のない場合、鋼材の材質はSS400とする。
 - 鋼材は、溶融垂鉛めっきとする。
 - ボルトは溶融垂鉛めっき高力ボルトF8T相当とする。
 - ※は、現場継手位置を示す。
 - デッキプレート受け材は、尾根、谷部梁wB1上にも設ける。
 - ケーブルラック支持材は、柱位置、柱中間点、端部はね出し部先端に設ける。

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-3 一級建築士 NO.272847 石井 康彦	一級建築士 NO.248486 構造設計一級建築士 NO.4009 木下 隆嗣	一級建築士 NO.334956 設備設計一級建築士 NO.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事 (第3工区) 図面名称 渡り廊下 構造図 その3 縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60	図面番号 S303
-----------------------------------	---	--	---	---	--	--------------